

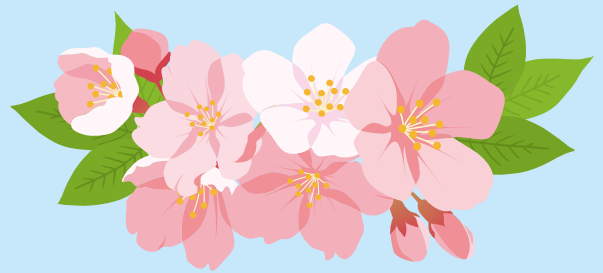
# あらた同窓會

令和3年 春季号

令和3年3月25日発行

鹿児島大学農学部  
あらた同窓会

電話 099-285-8537  
振替口座 02010-2-876



錦江湾に浮かび噴煙たなびく桜島

## 令和2年度会費納付のお願い

(会計年度：2020年10月1日から2021年9月30日)

鹿児島大学農学部、鹿児島農林専門学校および鹿児島高等農林学校の卒業生で組織される「鹿児島大学農学部あらた同窓会」(現在まで約2万人を超える卒業生を輩出し、それぞれが国内外で活躍しています)の運営は会員各位の通常年会費をはじめ、新入生(学生会員)が納付する入会金と会費などを主な財源としています。

本会は、農学部と協力・連携しながら、「母校の活性化や在学生への支援を行う」、「地域支部会やクラス会などに極力出席する」等に加えて、会報の発行と頒布を通じて「農学部と同窓会の近況や地域支部会、クラス会の情報などを会員にお伝えする」とともに「会員相互の交流と親睦を図っていく」こと等の活動を行っております。

開学以来、母校が110年以上築き上げてきた「あらたの輝かしい伝統」を次世代に伝承して行くために、同窓会活動に対するご理解並びに積極的な参加と協力を賜りますようお願い申し上げますとともに年会費の納入にご協力をお願い申し上げます。

年会費は2,000円です。同封の振込用紙をご利用ください。

## 鹿児島大学農学部あらた同窓会報春季号(毎年3月25日発行)への「エッセー」へのご寄稿のお願い

例年の「あらた同窓会報・春季号」には、「支部便り」や「クラス会・グループ便り」のご寄稿をいただいております。しかしながら、今年度は昨年2月以来の「新型コロナウイルス感染症」の影響で、全国各支部総会、クラス会・グループ活動が開催できず、同窓生の連携ができづらくなっております。そこで、「あらた同窓会報春季号」に新たに「エッセー」コーナーを新設し、会員から原稿を募集し、「支部、クラス、グループ等」以外の同窓生個人の近況、思い出、同窓会活動に対して思うこと等について積極的にご寄稿いただき、同窓生同士の連携を図る場を拡充することにいたしました。この新しい試みに対して、是非ご理解いただき、積極的なご寄稿をお願い申し上げます。

ご寄稿の原稿(ワードなどの電子ファイル)と写真(jpgなどの電子媒体)で、毎年1月末日までに事務局までにメールでお送りいただきますようお願い申し上げます。

詳細については、下記事務局までメールまたは郵便でお問い合わせください。

### 事務局案内【事務局執務体制】

執務日：月、水、金曜日 10:00~16:00

TEL・FAX：099-285-8537

E-mail: aratakai@mc2.seikyoku.ne.jp

住 所：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24

鹿児島大学農学部あらた同窓会

## 目 次

## 1. 巻頭言

新型コロナ禍の中でも、創造力を身につける学びを ……藤田 晋輔 2

## 2. 学部長挨拶

鹿児島大学でのコロナ感染拡大防止対策と近況について ……橋本 文雄 3

## 3. 定年退職者挨拶

巡る水に夢をのせて ……榎井 和朗 4

鹿児島大学での教員生活をふりかえって ……芝山 道郎 5

## 4. 副会長・会計監査委員の寄稿

「新型コロナウイルス感染症」禍での同窓会活動について思う ……富永 茂人 6

2020年を振り返って（80才、コロナとは？ 民主主義とは？） ……浮津 護 6

新たな出会いを求めて ……佐野 岩男 7

恩師の言葉 ……菊川 明 8

## 5. 支部からの寄稿（エッセーなど）

半世紀ぶりの同期会 ……吉村 秀清 8

中国・辺境の道の思い出（コロナ禍の今振り返る） ……藤岡 悦治 9

山本稔顧問（前会長）の追憶 ……柳田 興平 11

静岡県知事感謝状に輝く！ ……岩崎 健生 11

静岡県知事表彰にあたって ……野口 英昭 12

佐賀あらた会現役会を開催 ……貝原 洋平 14

第3の「ゆるい人生」を南国種子島で過ごす ……永井 定明 14

社会人になって ……長田 萌里 15

対沖縄ミカン貿易が「あらた会」先輩方の助力で甦る ……八幡 正則 16

農業土木の展望 ……吉嶺 彰二 16

「福岡ソフトバンクホークス・イチ押し」～「4年連続日本一」に寄せて～ ……鯉坂 明彦 17

退職後1年 何ごともほどほどが一番 ……熊本 修 18

在宅勤務と遠隔管理 ……福山 誠 19

鹿児島生活6年目を迎えて ……眞茅 拓実 20

## 6. 学生便り（卒業・修了にあたって）

吹奏楽と共にあった4年間 ……農業生産科学科 食料農業経済学コース 岩田 梨奈 20

大学4年を振り返って ……農業生産科学科 応用植物科学コース 藤本 水緒 21

鹿児島での2年間 ……農林水産学研究科 食品創成科学専攻 焼酎発酵・微生物科学コース 小橋 有輝 21

激動の4年間 ……食料生命科学科 食品機能科学コース 樋口 千紘 22

4年間の大学生活 ……農林環境科学科 地域環境システム学コース 上田 竣也 22

石橋は叩きまくって渡るべし ……農林水産学研究科 農林資源科学専攻 森林科学コース 森部 民恵 23

学び続ける人生にしたい ……国際食料資源学特別コース 椛島 千春 23

7. 恩師・同窓のお慶びならびに同窓の計報 ……事務局 24

8. 本部便り ……事務局 25

9. 賛助金および寄付者のご芳名 ……事務局 28

10. 役員名簿・会計報告 ……事務局 29

11. 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則 ……32

12. 編集後記 ……遠城 道雄

## 巻頭言

## 新型コロナウイルス禍の中でも、創造力を身につける学びを



鹿児島大学農学部あらた同窓会

会長 藤田 晋輔

(林S 37卒)

令和2年年始早々中国・武漢を発生源として報道された新型コロナウイルス（COVID-19）は、わずかな日数で日本に潜入、その数日後に国内全体に拡散したのは周知のとおりです。一方、世界を見ると、1か月も経過しない間に世界全体に拡散しました。「第3次世界戦争の勃発である」とした報道（放映、記事）もありました。あらた同窓会報（令和2年秋号）に既述しましたが、太平洋戦争の終末期、横浜の海岸から東京大空襲を目の当たりにして育った筆者にとって、敗戦直後に聞いた「第3次世界大戦は『細菌戦争』である」ことの記憶を蘇らせます。

可視不可能な姿である新型コロナウイルスは、あっという間に世界中を恐怖に陥れ、世界の主要国・地域における感染者数と死亡者数は、相変わらず増加しています。わが国でも感染者が増加し、身近な鹿児島県内でも陽性者が毎日ジワジワと増え続けており、私たちにも「三密を避ける」など新しい生活様式を強いています。そして、約1年を経過しました。我が国各地では沈静化する方向にあると報道されていますが、大都市だけでなく、国内の隅々まで猛威をふるっており、まだまだ用心と自粛が必要です。県内でも家庭内感染による児童、生徒まで感染が心配されています。迅速に完成度の高いワクチンが供給され、これの接種が1日も早く行われ、収束を願いたいものです。

このような状況の中で、感染拡大予防対策として、令和2年4月から多くの国公私立大学でオンラインによる遠隔授業が始まりました。鹿児島大学でも同じような処置がとられ、半月遅れの4月20日から遠隔授業が開始され、一部ですが、5月中旬にはようやく対面授業も始まりました。しかし、新型コロナにより燃えた気持ちが萎えたのか、前年度の4月のように晴れやかな新入生の姿が見えなかったのは残念でもありました。

このように在学生も含めて、「大学と言う最高学府における学びの世界に飛び込む夢」を描いた新入生諸君も対面授業でなく、いきなり遠隔授業となりましたが、これは「今後の学問を学ぶ手段」の大きな変革の始まりかもしれません。

ところで、現在のように進化した手法ではありませんが、20数年前に通信制である「放送大学（BSチャンネル）」の30分番組のテレビ放映に関与したことがあります。現在では当たり前のテーマですが、「これからの再生可能エネルギーの課題、今後の屋久島を事例に」と題して、「水素社会を屋久島に造る将来の夢」を図面化（パワーポイント）すると共に動画を組み込んだファイルを使用した経験があります。当時はまだ双方向でなく、テレビを通しての一方的な語りかけでした。学生諸君の顔が見える対面授業と比べ、受講生にどの程度理解され、思いが伝わったかを自問自答したことがあります。聞き手である学生諸君が受動的、もしくは能動的に受講するかにより、その学習効果は大きく異なるでしょう。

今回の新型コロナウイルス（COVID-19）の「感染拡大予防のため」として、オンラインによる遠隔授業が導入されたことは、今後の大学における授業が対面か、遠隔かの授業方法に対する大きな変革をもたらしたことは間違いありません。

今後、双方向形式で行われる遠隔授業が、対面のそれと遜色のない授業になるはずですが、是非とも、「遠隔授業であるから」を言い訳にせず、限られた時間を効果的に使い、授業の中で即座に創造力を身につけるように、挑戦して欲しいと願っています。

**学部長挨拶****鹿児島大学でのコロナ感染拡大防止対策と近況について**

農学部長 橋本 文雄

令和2年度、この3月25日にご卒業・修了の皆様、誠におめでとうございます。また、あらた同窓会卒業生および在校生の皆様、こんにちは。新年を迎え、皆様、恙なくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、丁度1年前に感染拡大が始まった「新型コロナウイルス」について、感染された方々、お亡くなりになられた方々には心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。また、この間日本経済は低迷し、特に飲食店業を中心に大変苦しい生活を余儀なくされている方もいらっしゃるとお伺いし、一刻も早くコロナウイルスが終息を迎え、平常な日々が訪れることを待ち望んでおります。

鹿児島大学では昨年3月の令和元年度卒業式の挙行が初めて中止となり、あらた同窓会共催の農学部卒業祝賀会も中止となりました。また、これに続いて4月の令和2年度入学式も中止となり、いずれも規模を縮小した形で学長室にて挙行されました。農学部では毎年4月の初めに、新入生を対象としたオリエンテーションを行っていましたが、昨年4月は学部創立以来、初めて全体のオリエンテーションを取りやめ、初めから3学科に分かれた形で行いました。さらには4月7日第1回目の緊急事態宣言発出を受けて、授業開始日が4月20日に延期となるなど、本学の教育研究に支障をきたしました。

4月からの講義形態は実習・実験を除いてはOnLineでの遠隔授業となり、数年前より導入したクラウド型教育支援システム‘manaba’を活用し、令和2年度前期の学業の成績評価はOnLineによるレポート提出での評価となり、これまでに経験したことの無い利便性と煩雑性を同時に感じました。感染拡大防止に伴う教職員のテレワークも実施され、農学部では昨年5月よりテレワークを一月ほど試行していましたが、在宅勤務の難しさが明らかとなり、現在も執務室における換気、職員間の距離の確保等、3密状態を避ける執務環境を確保しながら分散勤務を継続中です。教授会・経営協議会を除くほぼすべての会議体ではZoomおよびCiscoWebExのOnLineシステム（クラウドミーティング）による会議を実施しており、全学では特に教学事項（学生に係る全ての事項）に係る緊急的な新型コロナウイルス感染症対策を審議・決定するための特別会議「新型コロナウイルス感染症対策特別会議」が設置され、すでに19回の会議が開かれました。中でも特に、学長のご英断により、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅にアルバイト収入が減少した学生、または、家計が急変した世帯の学生など生活要支援の状態にある学生に対し、緊急支援措置として返済を要しない「鹿児島大学学生緊急支援金」の募集が行われ、本学の学部生・修士課程生へは一律5万円、博士課程の学生へは10万円の支援が行われたことは、特筆すべきであります。

このような中、夏季休業を挟んで昨年後期からは久しぶりの対面授業が再開されましたが、新聞等で報道がありましたように、11月中旬に本学学生に陽性者が確認され、適宜、保健所等とも連携しながら、濃厚接触者の調査等も行われました。その11月下旬以降、遠隔授業が再開され、その後はANPIC（安否情報システム）により学生と教職員へ「新型コロナウイルス感染症に関する健康状態の確認」が継続され、学生と教職員の体調管理が徹底されております。

本年1月には2度目となる緊急事態宣言が発出され、また、隣県への移動の自粛も要請される中、教職員の出張はもとより、国内外への移動や国際交流はこの1年間すべてストップした状態です。農学部では10の国際交流プログラムを継続中ですが、再開の目途はたっていません。ほぼすべての学界活動も対面での参加は行われておらず、しだいにOnLineへの開催にシフトしています。

令和2年度もあと二月を残し、4月からは令和3年度が始まります。新型コロナウイルス感染症対策分科会からも提言がありました、感染リスクが高まる「5つの場面」（①飲酒を伴う懇親会等、②大人数や長時間に及ぶ飲食、③マスクなしでの会話、④狭い空間での共同生活、⑤居場所の切り替わり）をご周知・徹底履行いただき、本学学生と教職員に対しては集団行動については自粛をお願いします。同窓会の会員の皆様には、健康に過ごされますことを心よりお祈り申し上げる次第です。

**定年退職者挨拶****巡る水に夢をのせて**

農林環境科学科 靱井 和朗

私は、1980年4月より2021年3月まで、41年間、大学の教育研究に携わってきました。鹿児島大学農学部には、1995年4月に助教授として赴任いたしました。退職前に貴重な機会をいただきましたので、私の教育研究を振り返り、皆様に、お伝えできることがあれば幸いです。

大学院修士課程修了後すぐ、博士号もないまま、助手として大学で働き始めました。学ぶ側から教える側へと、日々が一変しましたが、1980年代の10年間、恩師のもとで、研究力を身につけました。学位（農学博士）取得後は、1990年代前半、海外に飛び出し、水資源の乏しいメキシコ・カリフォルニア半島乾燥地農業の展開に関わるとともに、研究に対する新たな視点を探るために、北欧を訪れ、多様な水資源学研究者と切磋琢磨しました。英語力は上達しませんでした。多様性の中での個の重要性を認識することができました。私の国際的活動に対する支援は、主に、文部科学省や国際協力機構（JICA）によるものです。当時、このような支援は個人に対するものでしたが、海外で得た多くの知見や人（研究者）とのつながりは、その後の教育研究活動に大きく寄与し、所属大学の学生教育、さらには日本の国際化に貢献するものと思います。1995年以降は、鹿児島大学において、鹿児島地域に根差した教育研究、例えば、南薩地域の湖の農業利用と水収支解析、島嶼域の水資源管理と地下水解析、および畑地の水循環などに夢中で取り組みました。当時の学部生、修士課程や「連大」博士課程の学生たちと探究した数多くの「巡る水」物語は、国際科学誌や国際会議で公表し、大変喜ばしく、楽しい思い出です。

このように、私の研究は、地域を巡る水、清らかな水、資源としての水、利する水、治める水などを対象としています。これらの研究成果は、インターネットが発達した現代では、時を超えて、見知らぬ場所で、異文化の中、切磋琢磨する世界中の研究者の目にとまり、批判されながらも新たな研究の進展へとつながっていきます。この「巡る水」にサイエンスとしての夢やロマンをのせ、世界の研究者と対話できていることを実感しています。

大学での教育研究を通じて、最近は次のような思いでいます。例えば、1つの石ein steinを池に投げ込むと、水面には波紋が広がっていきます。投げ入れる個々の石は大きさも形も違い、また、池の中央に飛び込むか、あるいは端に飛び込むか、飛び込む位置で影響範囲が異なってきます。全く別な池もあることでしょう。個々の石が広げた波紋は重なり合い、時には打ち消し合いながら、無数の小石が後に続く。我々一人一人が個性輝くein stein になりうるのです。これからも、鹿児島大学農学部の貴重な科学的知見が世界に向けて発信され、お一人お一人の様々な専門分野における成果が波紋を広げ、世界の農学研究に大きなインパクトを与えていくことを期待します。

2021年春、いまだコロナ禍の中です。私が鹿児島大学に赴任した1995年の状況とは、全く異なる、混沌とした時代です。このような状況だから、鹿児島大学農学部の学生、教職員、そして、あらた同窓会が、さらなる高みに向かって発展していくことを願っています。最後に、鹿児島大学での26年間に心より感謝いたします。

**定年退職者挨拶****鹿児島大学での教員生活をふりかえって**

農林環境科学科 芝山 道郎

早いもので私の8年半の大学教員としての鹿児島生活が終わろうとしています。鹿児島大学農学部の教職員の皆さまには大変お世話になりました。心より御礼を申し上げます。

学部卒業と同時に当時の農林省農業技術研究所に採用され、その後組織の改変や転勤なども経験しましたが、30年以上研究員として勤務しました。卒業研究では指導教官に指示されるがまま作物個葉の光合成速度を測定しましたが、就職先の研究室は当時まだ珍しかったリモートセンシングやコンピュータを農業利用する研究に着手していました。プログラミングや試作機器の製作や実験のお手伝いなどとともに、試験田にイネの苗を手植えする作業などにも従事しました。すぐお隣の研究室は光合成を研究していたのですが、新人には理解不能ななんらかの組織の論理によって人生のコースが決められていたのです。境界領域という聞こえが良いのですが、従来の学問体系からみるとどうしても中途半端な分野であったことは否めません。しかし、経験豊富な農業者にしかできないとされてきた作物の生育診断を科学技術的に代替するという研究目標は当時の私の目にも魅力的なものに映りました。電気工作や電子機器にアレルギーがなく、半ば趣味的にも楽しめたことが幸いしたようです。その後、時代とともに多くの人々の努力や宇宙、電子、計算機技術等の進歩・普及に伴い、衛星観測による農業経営支援の実利用やスマート農業技術の導入実験などに結実しつつあるのはご承知の通りです。

鹿児島大学の教員公募に応募したのは、他大学に客員として何度か訪れるうちに、若い学生さんと一緒に考え、議論しながら研究してみたいと思うようになったからでした。若い人の発想や積極性、活力などももちろん個人差はあるでしょうし、毎年基礎から積み上げたいへんさもありますが、とても魅力的に思えました。幸い、採用されましたが、鹿児島にはそれまでまったくご縁がありませんでしたので、不安もありました。特に大学では授業を担当することになりますが、経験不足は否めませんでした。学部が旧講座制から現コース制への移行期でもあり、研究室単位での受け持ち授業数が多く、着任から半年後に前任の先生がご退職された後は一人ですべてを引き受けざるを得ない日々が続きました。その点、若いころから大学でキャリアを積んできた先生方は有利ですね。さらに大学特有の教務関係や入試業務などわからないことが多く、大変でした。先に研究所から大学に移った先輩の「大学は個人商店の集まりだから、組織には頼れない」という言葉になるほどと思いついたこともありました。思い直して、途中採用の教員としては、個人的な研究よりむしろリリーフ役に徹し、研究室内の環境や人間関係の和を重視して次世代の先生や学生諸君の自主的な発想と活躍を邪魔することなく、わずかでもそれらに貢献できることを心掛けたつもりです。

鹿児島大学農学部の皆さまが、これからも不断の変革と向き合いながら、研究の楽しみを若い学生と分かち合い、科学技術と農林業や環境問題の課題解決に邁進されますことを心より期待しています。

最後になりますが、あらた同窓会のOBOG、現役会員の皆さまのますますのご健勝をお祈り申し上げます。

## 副会長・会計監査委員の寄稿



## 「新型コロナウイルス感染症」禍での同窓会活動について思う

常任副会長

富永 茂人  
(園S 48卒)

「鹿児島大学農学部あらた同窓会」は1908年（明治41年）に創設された鹿児島高等農林学校に始まり、鹿児島農林専門学科（昭和19年改称）および鹿児島大学農学部（昭和24年設置）と引き続き、110年以上の歴史を持っている卒業生・修了生で組織されている由緒ある同窓会です。これまでの卒業生・修了生の総計はおおよそ2万人（物故者を除くと約1.6万人）です。

「あらた同窓会」の役割は卒業生・修了生（同窓生）の連携を図ることであり、これまで11月23日（高等農林学校開学記念日）の総会、北は北海道から南は沖縄までに作られている各地域支部（最近では休会中のところも多い）の総会で卒業年次を越えたOB・OGの交流を行ったり、学科や学年別のクラス会・グループ会などで旧交を温めたりして、積極的な活動を行ってきました。

しかしながら、今年度は昨年2月以来の「新型コロナウイルス感染症」のパンデミックの影響で、毎年11月23日に開催している「あらた同窓会」年次総会をはじめ各支部の総会なども中止になりました。また、母校鹿児島大学でも、卒業式と入学式が規模

縮小され、座学の授業が遠隔（リモート）授業になり、海外研修やインターンシップなども中止になりました。また、農学部と「あらた同窓会」が共催で行ってきた「卒業祝賀会」や「学生向け講演会」なども中止になり、「あらた同窓会」としては、全国各地で活躍している同窓生の連携や情報共有などが満足にできませんでした。

この「新型コロナウイルス感染症」につきましても早急な終息をお祈りしておりますが、一方では、コロナ禍の1年で「新しい生活スタイル」が提唱され、私たちの生活様式も大きく変化しました。このような「新しい生活様式」の下、「あらた同窓会」の活動も少しずつ適応して行く必要があります。

「あらた同窓会総会」や「卒業祝賀会」などについては、安全に開催できるように学内幹事会での議論や農学部との話し合いを進めて行きたいと考えています。また、毎年春秋の2回発行している「農学部あらた同窓会報」には、新たに「エッセー」コーナーを新設し、定番の「支部便り」、「クラス、グループ便り」に加えて、同窓生個人の近況、思い出、同窓会活動に対して思うこと等についてご寄稿をいただき、同窓生間の連携を図る場を作りたいと思います。手始めに今号（令和3年春季号）から寄稿をいただきました。このような新しい試みに対してご理解いただくとともに、新しい活動のご提案も受けて活発な同窓会活動にしたいと思います。同窓生の皆様、今後とも「あらた同窓会」の活動および母校鹿児島大学農学部への連携・支援をお願いします。



## 2020年を振り返って (80才、コロナとは？ 民主主義とは？)

副会長

浮津 護  
(林S 38卒)

私は1940年に生まれ、昨年80才になりました。今回、何故か突然この原稿を書く機会を頂き、改めて過ぎし時を深く考え、見直す事が出来、厚く御礼申し上げます。

今思えば、体力的、精神的、思考的、経済的に

も、これ程厳しい年は人生において、初めてだった様な気がします。その上、未だ先行きが、不透明なものも異常に不気味です。

さて、人生で一番楽しかった大学時代。桜島、錦江湾、高隈山、天文館、天保山、甲突川、市電、下荒田、鹿大、農学部、林学科、同級生、先輩、恩師、「だいやめ」、今でも最大の宝物です。

木材産業への就職は、泥沼堀のラワン貯木場から始まりました。京都の南禅寺で、40名ぐらゐの同級生と講義を受けましたが、良く理解出来ず、その後配置された現場でも、只々指示されるがままに動いて時間だけが過ぎて行きました。役に立たないのか、色々な所に回され、おかげで多くの人を知りました。



しかし、いつまで経っても、物理的な流れと金銭との関係、つまり「人、物、金、」の全体的な動きが理解出来ませんでした。

日本経済の拡大で、30代の始めから約10年間、商社との合併で海外事業の生産担当を勤めました。この間、現地の超インフレ経済、日本の急速なドル高で、物の価値の本当の意味が、少し理解出来たようです。これがその後の経営のあらゆる場で役に立った様に思います。後年、全社に「トヨタ生産方式」を導入した時、改めてその意味を深く教えられました。

65才で経営の場を退き、あるきっかけで手伝った障害者の施設で、その後12年間、ボランティアをして来ました。その場が、私の人生をより広く、深くしてくれた様に思います。

「だいやめ」の場で恩師が教えてくれた、「人生で一番悲しい事は何か?」、その時はすぐ答えられませんでした。「それは、する事が無い事」「何をしたらいいのか分からない事」。君達の最大の役目は、それを見つけ、手助けする事。それはいくつになっても難しい事ですが、変わらぬ義務だと確信しています。

77才で突然倒れ、1年半後やっとビールが飲めるようになりました。79才、とにかく脚と、頭を衰えさせぬように、自分なりの健康法を作り、それをとにかく実行して行きました。それがコロナで全てストップしてしまいました。

約1年、イライラしながら、その動きを見てました。一番先頭に政治家の皆様が居るはずですが、コ

ロナ下で、動くな、群れるな、喋るなど、はっきりした目的と、確信を持って、自分の言葉で、命をかけて、国民に指導しているのでしょうか。人命に対する危機が無ければ、政治家はいりません。

マクロ下での自然界の動き、絶対に変わらぬ、時間、距離等の中で、ミクロの人間がきめるルール、規則、法律、権力が、色々な形で過去の歴史を作ってきた様に思います。

日本に理想的な民主主義と、先進技術を教えてくれたはずの、米国。何故、今世界最大の感染者と、死者が出てるのでしょうか。いくら考えても、この数字のギャップが埋まりません。トランプがおかしいのか、日本のデータがおかしいのか。今世界でコロナが同時に起こり、混乱が続いています。民主主義の最先端国でも、共産主義の国でも、宗教の違う国でも。もしワクチンが効かぬ時は、何処へ行くのでしょうか。

2020年初頭より始まったコロナの動きは、民主主義が絶対と思い込んでいる、日本の政治家に、その本質を、教えている様です。多数の政治家の方々は、早く次の日本の為、恐れずに「決心し」「実行し」「反省し」「責任を取る」行動を起こさねばならぬと思います。二度と2.26事件の如き轍を踏んで、多くの国民を苦しみと、不幸の時代に追い込まぬ様心して下さい。同時にそれは平和な戦後を生きてきた我々の義務でもあるはずです。

いつから、同級生達と、ワイワイ言いながら酒を飲めるのか?それが今年の最大の夢です。



## 新たな出会いを求めて

副会長

佐野 岩男  
(農S 49卒)

今日のコロナウイルス汚染による現状を誰が予測できたでしょうか。

政治・経済は勿論あらゆる分野に大きな影響を及ぼし、これまでのやり方では対応できない状況にあります。いつ収束するか先が見えない中で、新しい仕事や生活の在り方を考えていく必要があると思います。

さて、卒業して早45年あまり、昨年古希を迎え、いわゆる高齢者の仲間入りをしたわけですが、長寿化が進む中では、実感がわきません。

現在、これといった趣味もない中で、囲碁、読書、庭いじりに加えて、町内会活動に携わっています。

町内会加入世帯が約900戸と多い地域で、年間を通していろいろな活動を行っていますが、その中で多くの出会いに巡りあいます。出会いは人だけではありません。書物であったり、地域にある史跡、風景など様々な事柄であったりします。こうした出会いにより、新たな発見があり、最近いろいろなものに興味を持つようになりました。その出会いは、何の予告もなく突然訪れます。これはコロナの問題と一緒ではないか、出会いが思いがけない行動につながるのではないかと思う今日この頃です。

以前読んだ曾野綾子氏の著書「人間の品格とは何か」の中に、「くれない指数」という言葉がありました。品格とは「〇〇してくれない」、「××してくれない?」など、指数で判るというもので、他人に頼ることなく、できることは自分でという意味だ

と思います。

これからも気力が体力より早く衰えないことを念頭に、いろいろな出会いを楽しみに過ごしていきたいと思います。

卒業、入学を迎えたこの時期は、新たな出会いの出発点でもあります。あらた会の絆を支えに、さらにその輪が広がり、1日も早く明るく希望のもてる時が訪れることを願っています。



## 恩師の言葉

会計監査委員

菊川 明  
(農S 48卒)

私の恩師は実質、國分禎二先生である。亡くなられた宮司佑三先生は当時学生部長をされており忙しく、卒業してから育珍会（育種学教室の同窓会）でのご指導をいただいた。

大学院1年の時、中途退学して県庁に入庁した。その送別会の席で國分先生から「若いうちに（20代で）何か一つ成し遂げなさい」という言葉をいただいた。確かに偉大な研究者は若い時に将来の研究成果の糸口を見つけている。とは言え「行政と研究は違う」という思いで酒と仕事の日々を送っていた。

時は流れ50歳も過ぎ、ある程度責任ある立場になったとき、人前で恥をかきたくない一心で「自分から」必死に勉強した。高校時代にこれぐらい必死に勉強していれば東京の某一流有名大学にも合格したかもしれない……と思った（笑）。また「自分から」考え、勉強すると「情報の価値」にも敏感になると思った。おかげで、あまり恥をかかずに済ん

だ。

その時、ヒトは自分の能力を100%は使っていないかもしれない、だから「やれば（持っている力を100%使えば）できるという」言葉があるのかもしれない、などと思った。

今となっては致し方のないことだが國分先生の言葉を守り、20代で本気になってテーマを探し、勉強していたら今とは違った生き方になっていたかもしれない、とも思った。

若い時にやりたい事、成し遂げたい事を見つけた人は幸せである。多くの人はやりたい事が見つからず、それでも生活のため頑張っている。

國分先生は「僕には好奇心がある」とも言いました（学生時代に実験室で聞きました）。日本の自然科学系のノーベル賞受賞者からも「好奇心」という言葉が聞かれます。一方、アメリカの公民権運動家のキング牧師は「私には夢がある」と言いました。

やりたい事を見つけ、成し遂げるためには「好奇心」を持ち「夢」を持ち続けることが大事だと思います。

ここで、もう一つ好きな言葉を思い出した。「疲れたら休め、彼らも遠くに行くまい」

某ウィスキーメーカーのキャッチコピーである。私にはこちらが合っているかもしれない。

## 支部からの寄稿（エッセーなど）

### 半世紀ぶりの同期会

関東あらた会元副会長 吉村 秀清（農S47卒）

昭和46、47年農学科（農業経済専攻）卒業の私たちは卒業して半世紀になります。これまで鹿児島での同窓会が開かれなかったことから、ここで開かないともう会うチャンスはないのではないかと危惧

し、急遽計画した次第です。昨年のコロナ騒動の直前の2月3日、大学の正門に集合してまずは農学部構内を散策。私たちが学生の頃にはなかった「焼酎・発酵学教育研究センター」を訪問し、温かくお迎え頂き奥津先生から焼酎研究について説明して頂きました。その後、構内の象徴的遺産であり高等農林時代からある玉利池、総合研究博物館を見学しその後は同期会会場の「ホテル吹上荘」へ。

今回の参加者は12名（うち1名は卒業生の奥様）

と思います。

これからも気力が体力より早く衰えないことを念頭に、いろいろな出会いを楽しみに過ごしていきたいと思います。

卒業、入学を迎えたこの時期は、新たな出会いの出発点でもあります。あらた会の絆を支えに、さらにその輪が広がり、1日も早く明るく希望のもてる時が訪れることを願っています。



## 恩師の言葉

会計監査委員

菊川 明  
(農S 48卒)

私の恩師は実質、國分禎二先生である。亡くなられた宮司佑三先生は当時学生部長をされており忙しく、卒業してから育珍会（育種学教室の同窓会）でご指導をいただいた。

大学院1年の時、中途退学して県庁に入庁した。その送別会の席で國分先生から「若いうちに（20代で）何か一つ成し遂げなさい」という言葉をいただいた。確かに偉大な研究者は若い時に将来の研究成果の糸口を見つけている。とは言え「行政と研究は違う」という思いで酒と仕事の日々を送っていた。

時は流れ50歳も過ぎ、ある程度責任ある立場になったとき、人前で恥をかきたくない一心で「自分から」必死に勉強した。高校時代にこれぐらい必死に勉強していれば東京の某一流有名大学にも合格したかもしれない……と思った（笑）。また「自分から」考え、勉強すると「情報の価値」にも敏感になると思った。おかげで、あまり恥をかかずに済ん

だ。

その時、ヒトは自分の能力を100%は使っていないかもしれない、だから「やれば（持っている力を100%使えば）できるという」言葉があるのかもしれない、などと思った。

今となっては致し方のないことだが國分先生の言葉を守り、20代で本気になってテーマを探し、勉強していたら今とは違った生き方になっていたかもしれない、とも思った。

若い時にやりたい事、成し遂げたい事を見つけた人は幸せである。多くの人はやりたい事が見つからず、それでも生活のため頑張っている。

國分先生は「僕には好奇心がある」とも言いました（学生時代に実験室で聞きました）。日本の自然科学系のノーベル賞受賞者からも「好奇心」という言葉が聞かれます。一方、アメリカの公民権運動家のキング牧師は「私には夢がある」と言いました。

やりたい事を見つけ、成し遂げるためには「好奇心」を持ち「夢」を持ち続けることが大事だと思います。

ここで、もう一つ好きな言葉を思い出した。「疲れたら休め、彼らも遠くに行くまい」

某ウィスキーメーカーのキャッチコピーである。私にはこちらが合っているかもしれない。

## 支部からの寄稿（エッセーなど）

### 半世紀ぶりの同期会

関東あらた会元副会長 吉村 秀清（農S47卒）

昭和46、47年農学科（農業経済専攻）卒業の私たちは卒業して半世紀になります。これまで鹿児島での同窓会が開かれなかったことから、ここで開かないともう会うチャンスはないのではないかと危惧

し、急遽計画した次第です。昨年のコロナ騒動の直前の2月3日、大学の正門に集合してまずは農学部構内を散策。私たちが学生の頃にはなかった「焼酎・発酵学教育研究センター」を訪問し、温かくお迎え頂き奥津先生から焼酎研究について説明して頂きました。その後、構内の象徴的遺産であり高等農林時代からある玉利池、総合研究博物館を見学しその後は同期会会場の「ホテル吹上荘」へ。

今回の参加者は12名（うち1名は卒業生の奥様）

と少なかったのですが、それでも関東、名古屋、九州各県から集合しました。開催の準備は地元の片平君（元鹿児島県庁）にお願いし、東京組は「あれをやってくれ、これを入れてくれ」と要求ばかりで片平君を悩ましたらうと反省をしております。

年齢は全員70歳以上であるため当然第一線を引退しており、話は学生時代の思い出話に花が咲きました。当時は「70年安保」で全国の大学が学園紛争で混乱しており、鹿大も少なからずその渦のなかであって、あまり勉強をした記憶はありませんが、研究室にはみんなよく顔を出して仲はよかったように思います。こうした経験をしたためか再会はその当時の雰囲気に戻り実に心地よい感じがしました。それだけでもこの会を開いた意味があったように思います。

最後になりましたが、当時の農政学教室の梶井功教授（後の東京農工大学長）が一昨年7月に亡くなりました。出席者は全員大変お世話になった世代でしたので、梶井先生の思い出を語る人もいました。また、当時、助教授の阿部正昭先生（鹿大から法政大学へ）は現在東京にお住まいです。この会のご出席をお願いしたのですが、事情があつてどうし

ても出席できないということで、先生からお預かりしたメッセージ（嫁さんを大事に！。88歳までは頑張れ！（注）なぜ88歳かは、阿部先生が昨年88歳になったためだということでした。）を皆さんにお伝えしました。

こうした会の常ですが、「またこの会を開こう」と約束して散会となりました。いつ開けますかね！



上段 西本 納山 廣瀬 中山 吉村 片平  
下段 橋本 幸雄 橋本 洸 西本(妻) 松崎 緒方 矢野  
鹿児島大学農学部農学科（農業経済学専攻）  
昭和46、47年卒同期会  
令和2年2月3日 ホテル吹上荘（鹿児島市）にて

**中国・辺境の道の思い出  
（コロナ禍の今振り返る）**

近畿あらた会幹事 藤岡 悦治（農S46卒）

2003年、中国でSARSが流行り、あわてふためきつつ黒マスクをした北京市民の自転車の群れを新聞等で見、多くの日本人が嘲笑したことだろう。

その騒ぎが収束に向かっていった8月、無謀な旅行との誹りをまぬがれない覚悟で、忠告を聞き流し中国へ向かった。北京空港から市内に向かう車中、現地ガイドが「今夜はサプライズがあります！」と言った。はて？と首をかしげるばかりだった。

しばしホテルで休憩の後、夕食に向かったバスは人民大会堂の正面玄関の駐車場に入った。正面階段を上り絨毯が敷かれた左手廊下を進み、ある省の部屋へと案内された。SARS騒ぎに伴い海外からの旅行者が急減し、当時何とか外貨を稼ぎたい北京市旅游局が仕組んだものだった。

女性旅游局長の「ようこそ北京へ。この難しい時期、北京滞在の旅行者を対象に大陸別に人数を割り当てて招待しています。今夜は、国賓級のメニューを用意しています」のあいさつ通り、中国料理のフ

ルコースがふるまわれた。フランス風中国料理といった風情で、ふだんの中国旅行中のものとはかけ離れた豪華さで、ビールや老酒も飲み放題、全土から集められた良家の子女が給仕を担当していた。

人民大会堂で食事をごちそうになるなんてことは、よほどの高官でもない限りできない経験だろう。雰囲気も手伝ってか、かつて頤和園で、西太后も楽しんだであろう宮廷料理にも優る味を楽しんだ。悔しいのは“人民大会堂”と印字された小皿の一つも失敬してこなかったことである。



それから十数年を経た2019年の2月・春節明けに湖北省を旅した。三国志に出てくる赤壁に近い荊州城などを見て回ったのち、武漢市内では長江大橋を何度も行き来しながら、黄鶴楼、武漢大学、宝通禅寺、湖北省博物館などを巡った。そして、その年の暮れには“来春には洛陽へボタンを見に行こう”と友人と約束を交わした。その矢先、マスク集団の風景が日本中で再現された。当時の北京の再現である。あわせて、

「マスクがない。トイレットペーパーがない…」と。

コロナのニュースを見た当の友人からすぐに電話があり「ちょうど1年違い、危なかったねえ」「今年の中国旅行はやめよう」と。先のSARS騒ぎを覚えていたので、てっきり「夏ごろ、遅くとも年内にはおさまるかな」と思いつつ旅行を断念した。そのコロナが地球に住むすべての人々に戦慄を覚えさせ、これまでにないほどダイナミックに生活を変えた。

ほぼ1,800年前、赤壁の戦いでは曹操の軍に「傷寒病」と称される、インフルエンザともいわれる病が流行したことも手伝って、劉備軍が大勝したことはよく知られている。

今回のコロナはコーモリ由来とされているが、実は中国大陸では断続的にコロナタイプのウイルスが発生しているのではないかと、いまこそ孔明が持つ羽毛扇の魔力でウイルスを退散に追い込んでほしいものである。とはいえ、酒見賢一著“泣き虫弱虫諸葛孔明”を読む限り、羽毛扇の魔力もコロナには太刀打ちできないか？（前頁の写真は荊州・関帝廟にある諸葛孔明像）

さて本題は三十数回の中国旅行で体験した“辺境の道”だった。いま、中国と言えばコロナは外せないのので先に駄文を弄した。

学生時代は中南米研究会（今は海外研究会と改称）に属し、就職後も曲りなりに海外への関心を持ち続けてきた。

1. 当初、新疆ウイグル自治区ウルムチからトルファンに向かう予定だったが、天山の雪解け水が道路を寸断していた。現地旅行社と相談の結果、急遽飛行機でカシュガルに行き先を変更し、翌日にはカシュガルからパキスタン方面に向かった。カラコルム・ハイウェイなんてしゃれた名前がついているが路面はがたがた、頭上の崖はいつ崩れてもいいようなものだった。

これ以上はないほどの青い空、夏なのに雪をかぶった7,700mのコンゲール山を眺めながらマイクロバスはパミール高原に向けて登った。標高3,000mを過ぎるところから見事な草原が広がり、点々とゲルが見られ、そばの粗末な木製の棚に純白のおからのようなものが干され、近くに行くと鼻をついた。ヤクかラクダのチーズである。

標高4,000mのカラクリ湖が旅の終点である。これ以上は危なくて進めない。青い瞳のウイグルの女性たちが、地面に莫塵を引いて土産物を買っていたのが印象的だった。

この道も今では行きにくくなっていることだろう。ガイド嬢が住むウルムチ、その親が住むカシュガルをはじめもう一度家庭訪問をしたいが、しばらくは無理だろう。

2. 成都から飛行機でラサへ行った。到着すると

すぐ現地ガイドから「ここは標高3,600m、吸わないで、飲まないで、しないで」と忠告があった。なるほど息苦しい。

ポタラ宮をはじめとするチベット寺院を訪ねた後、バスで標高4,700mのカンパラ峠に向かった。右手は断崖である。上等でないマイクロバスのこと、ハンドルを切り損ねたら、パンクしたら数百mは転がり落ち一巻の終わりだろう。しばらく進むと今度は道路を横切るように川が流れていた。地球温暖化がすでに顕在化していたのだろうか、雪解け水が道路を寸断していたのだ。運転手以外はバスを降り流れてきた岩をよけて先に歩き、バスは川を恐る恐る渡ってきた。

チベット族の民家やヤクの放牧を眺めながら、標高4,700mの峠につき、バスを降りて見下ろす、青緑の水をたたえたヤンズヨン湖は神秘そのものであった。

ラサで買った、曼荼羅が印刷された黄色いタルチョ？は竹竿にくくられ、今はハイキング仲間の目印になっている。

3. 敦煌からトルファン、コルラ、クチャ、アクスを経てカシュガルに向かう天山南路はおおむね走破した。ならばと、タクラマカン砂漠と崑崙山脈間を東西に延びるいわゆる西域南路に興味に移りバスで走った。且末（チャルチェン）を起点に民豊（ニヤ）、和田（ホータン）、莎車（ヤルカンド）をへてカシュガルに抜けるルートである。

砂というより砂埃に近い砂漠の中に道路が作られている。バスから見えるのは点々と花を咲かせるタマリスク、はるか昔の歴史を見てきたであろう胡楊樹であり、時折立ち上るつむじ風である。NHKなどで紹介される遺跡はこの道路のずっと北、砂漠の中に眠っている。旅行社に「行きたい」とせがんだが、「4駆をチャーターして砂漠を走り、テント泊になります。それでも行きますか？何もないですよ」とのこと、断念した。

印象に残るのは且末郊外、砂漠の真ん中で見た墓地の地下に眠る一家らしいミイラ、民豊近くのこじんまりした博物館で見た夫婦のミイラである。我々以外に観光客はなく、小さなオアシスの村では物珍しがられたが、ウイグルのおじさんたちの笑顔は忘れられない。

なお、このルートは玄奘三蔵がインドから帰る際に使用した。ただし今、我々が行くのは無理かな？

4. 農学部を目指した理由の一つが、高校時代に読んだ中尾佐助著「栽培植物と農耕の起源」だった。ならば、その中心的な舞台を見ずにはおれない。どうせならと昆明から飛行機で約1時間、ミャンマーやラオスなどと国境を接する地域をめざした。

何度かの訪中で、我が国の文化や食べ物の多くが中国由来であり、とりわけ赤米、なれずし、納豆などの発祥で、我が国稲作の原風景が残るといわれるシーサンパンナは必須の旅行先と思っていた。

掘っ立て小屋が並ぶ粗末なバザールに行くと、確かに似通った食材が並んでいた。ただ、印象に残っているのはバザール前のレストランでの食事である。ビールを飲みながら食事を待つ間、前の通りを見ると牛を連れた農民が悠然と歩いていた。やがて出された食事にほぼ全員が箸を付けなかった。油べったりで極端に不味いのである。“道”にはやや不似

合いな題材だが、もう一度変化を確かめたい地域ではある。そして陸路ミャンマーやラオスに抜きたいと思っている。

以上、とりとめのない話題だったが、この30年あまり、中国を見てきて、彼らのしたたかさ、エネルギー、全土漢民族化、抜き差しならないところまできている日中の経済関係などを肌で感じるとき、日本がいつ“中国日本省”になるのか、はたまた“合衆国日本州”になるのか、我々が生きているうちに決着がつくのだろうか考え込む。

## 山本稔顧問（前会長）の追憶

兵庫あらた会常任幹事 柳田 興平（獣S46卒）

山本顧問（林22）の訃報は、令和2年度合同総会中止のはがきが2年前から入居されていた高齢者ハウスから返却されてきたため、ご自宅を訪問し、ご長男に1月14日に94歳で逝去されたとお聞きして驚いた次第です。



2006年5月28日パレス神戸で開催した兵庫あらた同窓会総会での故山本稔会長

それは山本顧問から前年の11月7日に電話

で「今年の総会で『癒された遍路』を講演された田中慶秀氏（化39）に来春にでもお会いして遍路についてお話を聞きたいので段取りして欲しい」と要請されていたからです。

山本顧問には、長年に亘り県の林業振興をはじめ農林行政に従事され、県森林組合連合会の専務理事を務められるなど多大の功績を挙げられ、平成27年

6月に高齢者叙勲として瑞宝双光章を受けられました。

また兵庫あらた同窓会の運営につきましては、昭和41年から平成12年まで35年間常任幹事、平成13年は副会長、翌年から平成24年まで11年間会長、その後は顧問として、総会へのご出席は平成28年が最後でしたが、こよなくあらた同窓会を愛され、会員には楽しい会合と明日への励みになっていました。

この間、平成元年には兵庫あらた同窓会報の創刊、平成7年1月の阪神淡路大震災後の5月に総会の開催、平成12年には改組50周年記念事業として記念誌の発行及び記念プルゾンの製作、平成16年から近畿あらた同窓会との合同総会の開催、平成20年には農学部開学100周年記念誌「あらた百年の歩み」へのご寄稿など本会の生き字引として精力的にご活動いただきました。

特に山本顧問は、昭和25年改組以来5月末に総会を一度も休止することなく続けてこられたことを何よりも誇りにされていきましたので、ご存命であれば新型コロナウイルス感染拡大に伴う非常事態宣言により中止されたことには心を痛められたことと思います。

最後になりましたが、心から感謝申し上げます、ひたすら御冥福をお祈り申し上げます。

## 静岡県知事感謝状に輝く！

福岡あらた会 岩崎 健生（林S31卒）

旧友野口英昭君（林S31卒）が令和2年4月6日

「静岡県知事感謝状」を受賞しました。学生時代は、初島住彦先生の薫陶を受けて植物採集に夢中でした。静岡県に奉職してからも、植物に親しむ生活に変わりはありませんでした。特筆されるのは、彼が在職中に採集した植物標本が放置されていることを知り、虫くいになったものを分離・長年管理して

県博物館へ返還したことです。また、植物方言にも興味を示し、土地の人との会話をメモして10年おきに3回もの静岡県植物方言集を発行しています。何はともあれ、彼が受賞を機に記した「植物遍歴」をご覧ください。（本号12～13ページに野口さんのご寄稿が掲載されています。）

- 植物遍歴 野口 英昭 (林S31卒)
- 1957 鹿児島大学在学中の採集標本 3,600点 鹿児島県立博物館へ寄贈
- 1959 \*元静岡県有用植物園研究員 2か年間の採集植物標本 2,900点  
\*植物目録 3編：石廊崎 445種、爪木崎 412種、波勝崎 1,238種  
\*伊豆半島青野川河口にメヒルギ植栽
- 1964 ソナレセンブリ発見：伊豆半島爪木崎
- 1968 \*同上について、初島住彦博士学会発表（北陸の植物）  
\*静岡県初記録 カンコノキケホシダ（原色日本林業樹木図鑑第2巻）
- 1974 南伊豆に茂るマングローブ（日本植物園協会誌No.9） 投稿
- 1977 静岡県初記録 クロミノスズメウリ（植物採集ニュース 90号）
- 1983 静岡県樹木名方言集 453種（静岡県林業会議所）出版
- 1984 静岡県初記録 オオフユイチゴ、ノハラテンツキ、ハマベノギク（静岡県植物誌）
- 1987 元静岡県有用植物園の虫食い標本分離 1,100点管理

- 1988 植物よもやま話 伊豆新聞毎週月曜日13か月50回連載
- 1995 静岡県樹木名方言集 514種（静岡新聞社）出版
- 1999 元徳川慶喜邸ダンマルジュ 樹齢約150年 静岡市浅間神社門前
- 2003 静岡県初記録 ナガエツルノゲイトウ（遠州の自然 26号）
- 2004 静岡県自然環境調査委員会植物部会員（静岡県版レッドデータブック作成）
- 2006 静岡県草と木の方言 1,090種（静岡新聞社）出版
- 2014 みどりの日 瓜木崎自然観察会13年同一道（環境省関東地方環境事務所・下田市）
- 2019 \*関東～九州地方アカガシ亜属等標本 750点 国立科学博物館へ寄贈  
\*鹿児島県伊佐市界隈の植物方言（案） 525種 寸話 100 鹿児島県立博物館へ寄託  
\*元静岡県有用植物園標本 1,100点 植物目録 3編  
ふじのくに地球環境史ミュージアム（静岡県立博物館）へ返還
- 2020 \*河川水系流域委員会委員  
参加河川名：青野川、伊久美川、大賀茂川、勝間田川、河津川、栃山川、湯日川など  
\*ふじのくに地球環境史ミュージアム館長感謝状  
\*静岡県知事感謝状

## 静岡県知事表彰にあたって

東海あらた会 野口 英昭 (林S31卒)

静岡県知事感謝状をいただいてまずは先祖へ報告しようと思い、実家の伊佐市へ持参することにしました。あいにくのコロナ禍に阻まれて、カラーコピーを額縁ごと送らざるを得ませんでした。同時に、級友とも喜びを分かち合おうと思って「植物遍歴」を同封しますと、早々に「あらた同窓会報」へ投稿したと言うから驚きました。苦言を呈する暇ありません。遍歴の中のエピソードを幾つか掘り起こして同窓各位のご批判を仰ぐことにしました。

① 先生待った！

元静岡県有用植物園研究員時代、東京大学の倉田悟先生が伊豆に見えるたびにお供しました。先生はシダ植物の権威、その日も先生お気に入りの天城山沼の川でした。窪みに茂るシダに先生の手が伸びようとした瞬間、「先生 待った！」と叫んでいました。何事かといぶかしがる先生の目の前で、シダの葉陰にとぐるを巻いたマムシを取り押さえました。マムシの扱いは、大学卒業後の専攻科時代に高隈演習林の施業案編成のため岳野に寄宿した半年の間、仕事仲間の地元青年達が手際よく捕獲するのを見ていたから、伊豆でも何例か経験済みでした。

倉田先生の「樹木学」は、幾つかの大学で公開されて有名講座でした。全国行脚に裏打ちされあるいは学術的な権威ある著書が多く、1963年発行の「日本主要樹木名方言集」や1968～1976年の「原色日本林業樹木図鑑」全5巻など圧巻です。後者の第2

巻に「快男児」というサブタイトルで、カンコノキとケホシダの記事を小生の実名入りで掲載されました。顧みるに、2年ほど同行したに過ぎない若僧の名を名著に記して頂いたご好意に頭が下がります。

② 全国2例目

静岡県林業専門技術員で人望のあった星出先輩 (FS 26) に依頼されて、マンション建設を計画されていた安池邸 (林業家) へ行くと、幹にオオバナギと書かれた大木がありました。葉、雄しべ、幹の斑紋がナギとは違っていましたから、標本にして初島先生へ送りました。



安池邸の果実描写  
線画は (株) インブルより

折り返し、全国2例目 (1例目は長崎県天然記念物、九州大学井上晋 (FS 43) 先生の2005年「ふるさと自然と歴史」302号参照)、和名は使用例の多いダンマルジュがよかろうと教わりました。

FS 31同窓会が2018年5月静岡市で開かれ、恩師の面影を追ってダンマルジュを見学しました。そこは静岡市浅間神社の門前、名に属名を入れた「マンションアガチス」の一角、高さ20m 胸高周囲320cmの大木です。もともと江戸幕府最後の将軍徳川慶喜邸にあったとされ、民間に開放される時長年の世話役だった安池家の当時の先代が自宅に移し替えたと言われ、150年ほどの樹齢です。

③ 20世紀後半に登場

1964年11月の伊豆半島須崎、松くい虫被害木調査中に出合ったきれいな花を持ち帰りましたが名は不明でした。2年後の転勤の挨拶状に初島先生へよれよれの花を同封しますと、先生はそれをタイプ標本に新種ソナレセンブリとして学会誌に発表されました。

しばらくして、あるマニアから静岡県知事に「現地にソナレセンブリは無い、当方育成の稚苗を買い取れ」との手紙が届きました。当時まだ保護条例のない時代でした、現地調査で新しい自生地が確認でき当人の要求を断って、その行為を厳しく戒めました。

ソナレセンブリ = *Swertia noguchiana* Hatusima  
RDB = 環境省・静岡県カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR)

④ 南伊豆のマングローブ

元静岡県有用植物園の研究項目に、亜熱帯植物の馴化栽培がありました。その1つマングローブ導入

を目的に自生限界地の鹿児島県喜入地方と比較するため、地元中学生の協力を得て1959年青野川河口の冬季気象観測に取り組みました。結果として、両者の数値に大きな違いが無いことからマングローブ育成可能と判断、種子島のメヒルギ種苗を拾って青野川河口のハマボウ群生地へ移植しました。



ソナレセンブリ  
線画は (株) インブルより

1974年、それらの顛末を竹下植物園長と共同名で日本植物園協会誌に投稿しました。数大学が注目したようで、胎生植物の見本とか亜熱帯植物の教材として海外留学生に及ぶ現地研修会に利用されました。ある大学では、DNA分析から沖縄産ものと種子島産ものの識別まで発展させていました。

⑤ 新収蔵品展

ふじのくに地球環境史ミュージアム (静岡県立博物館) は、「新収蔵品展2020」と銘打って新しく収蔵した自然史標本 (化石、昆虫、魚類、植物等) の中から選りすぐりの逸品を去る5月23日~8月23日に公開展示しました。植物部門では、杉本順一先生 (日本草本植物総検索誌や静岡県植物誌の著者、第二次世界大戦前に静岡市の自宅にあった標本20万点は静岡大空襲で焼失) が、1972~1930年に静岡県内で採集した標本が北海道大学総合博物館で見つかり、去る4月に当ミュージアムに寄贈されていました。それら、杉本コレクションの90年ぶり帰郷を記念した催しでした。

展示では、杉本コレクションに隣接して奇しくも小生が2019年ミュージアムへ返還した標本の中からイトテンツキとコキジノオシダが展示され、採集者としてカンコノキ・ケホシダ・ノハラテンツキの静岡県初記録者として紹介されていました。ミュージアムの展示に感激しました。



## 佐賀あらた会現役会を開催

佐賀あらた会幹事長 貝原 洋平（生還H12卒）

佐賀あらた同窓会は、会則に基づいて総会を毎年6月頃に開催していましたが、令和2年度については新型コロナウイルスの影響により、残念ながら開催を見送ることになりました。

一方、令和2年に卒業して4月から佐賀県職員に採用された新しい会員については、大学の先輩職員と接する機会が少なく、同じ県庁で働く新しい仲間との交流の場を設けたいとの思いから、県庁の現役職員を主な対象とした「佐賀あらた現役会」を総会の代わりに開催することとしました。

現役会は、新型コロナウイルスの感染状況も比較的落ち着いた令和2年11月14日（土）に佐賀市内の焼肉店で開催し、新規会員を含む14名の参加者で交流を深めました。会には、特別ゲストとして鹿児島大学農学部あらた同窓会の常任副会長である鹿児島大学名誉教授の富永茂人先生にご参加いただき、会員も気になっていたコロナ禍での母校の近況などをご紹介いただきました。

富永先生には、ご多忙の中時間を割いてお越しいただきまして改めて感謝申し上げます。

現役会では、初めて参加した会員や富永先生を囲んで母校のことを語り合うなど、和気あいあいと和やかに一緒に時間を共有し、現役会員の親睦を深める機会にすることができました。

現在第3波と言われる新型コロナウイルスの全国的な感染拡大がみられており、次回の佐賀あらた同窓会総会の開催も見通せないような状況ではありますが、コロナが終息に向かい、国内のみならず世界で苦労されている多くの人が元気を回復して、佐賀あらた同窓会も多数の出席者の参加で開催できるように願っております。



佐賀あらた会現役会の様子

## 第3の「ゆるい人生」を 南国種子島で過ごす

大分あらた会支部長 永井 定明（農S52卒）

2011年に大分県庁を59歳で定年退職、その後大分農業文化公園の園長として再就職した。この公園は宿泊施設や遊具、鑑賞温室、グラウンド、体験農園等が整備された120haの広大な公園だったが、園内は草だらけでかなり荒れていた。赴任後3年をかけて年間20万人ほどの来園者が楽しめるきれいな公園に様変わりをさせ、家族連れ等が遊具やツバキなどの季節の花、農業体験などを楽しめるきれいな公園に再生できた。赴任当初バブル時代のお荷物として廃園の話題も出ていたが、お客様満足度を上げることによってその話も消えて、達成感を感じながら3年契約の第2の「勤め人」人生を終了。公園は、入園料を無料とした中で、お土産品や貸出機材など小さな売り上げの積み重ねで運営費を確保する必要があり、経営的な視点と手腕が求められた。公務員人生

には無かった儲を出さなければならない仕事の厳しさ、民間のキリキリした職場風土を肌で感じ有意義な第2の人生体験をさせてもらった。

一昨年104歳の母の最後を看取り、ここにきてやっと自分の自由な時間が持てるようになった。残りの人生をどう過ごすか。時間や規則、規律などに縛られない、自由でゆっくりした人生を過ごす、そういう思いから妻の出身地であった南国種子島で過ごすことにした。

種子島はバナナが道脇に生え、サトウキビ畑やからも畑が一面に広がり、島の人々は穏やかでのんびりしている。暖かくのどかな風土の中で、時間を気にせず自由で気ままな生活を送る。将に「ゆるい人生」を第3の人生として選択した。

現在、果樹や野菜を植えたり、歩いて10分位の海で魚釣りしたりといった生活を楽しんでいる。妻は孫の世話で大分に居残り、今は単身生活のお試し期間中。今後は1年のうち半分以上は種子島で過ごしたいと思う。十数年前に八朔を植え、大きな果実をたくさんつけるようになったが、これまで遠距離で放任状態のため煤病等が多発。でも、果実はとて

もジューシーで糖度も高く、見た目は悪いが味は最高。地元の直販所「トンミー市場」へ出荷してみたが、ポンカンやタンカン等甘い果実に押され売れ行きはあまり良くない。儲けるためではないのでこれで良しとしよう。畑には、アボカドやアセロラ、オリーブ、柿、桃、フィンガーライムや野菜などそれぞれ30種類近くの品目を植え、植物園状態となっているがどれが上手く育つか楽しみである。

単身生活は結構大変、日常の家事に時間を取られ、畑に行く時間がなかなか取れない。夏暑い真っ盛りに野良仕事し、案の状熱中症にかかり病院で点滴を受ける羽目になってしまった。単身は病気や事故に注意、人知れず…そのままに！という事にもなりかねない。

コロナ禍もあり、到着後2週間は自宅待機をするが、何の不都合もない。無理をせず「ゆるい人生」を楽しむことにする。種子島での生活の様子はアメンバーブログの「さーちゃんの気ままな日記」に

拙稿を掲載。興味のある方はスマホでご覧いただければ幸いです。



種子島での農作業（左：八朔の収穫、右：小型管理機作業）

## 社会人になって

熊本あらた会 長田 萌里（食生R2卒）

私は、5年前食料生命科学科の第1期生として鹿児島大学に入学し、講義や研究、サークル活動、バイト等に励み、今までの学生生活とはまた一味違う充実した大学生活を過ごしてきました。



そのような大学生活をおくる中で、大学3年生の頃から就職について意識し始め、大学4年生からは就職活動も本格化し、業界研究や職業体験等通じて現在の職場に巡りあいました。

社会人1年目として、今年度の春から働き始めましたが、仕事をうまくやっていけるだろうか、職場の雰囲気にはなじめるのだろうか等たくさんの不安

がありました。当初は、自身の担当業務を理解することや、職場のルールを理解することに必死でした。また、業務を遂行していく中でたくさんミスも連発し、落ち込むときもありました。しかし、職場の上司の支えや同期の存在があり、徐々に失敗を前向きにとらえ業務を遂行することができるようになりました。

さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により自身の担当業務においても例年とは異なった対応を求められる場面もありましたが一つ一つ乗り越えていくたびに自分自身の自信や達成感にもつながりました。

次年度は、社会人2年目となることから、失敗を恐れず、業務に対してさらに意欲的に取り組んでいけるように頑張りたいと思っています。また、仕事面だけでなくプライベート面でも充実を図っていきたいと考えています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあったため、あらた同窓会での活動に参加する機会はあまりありませんでしたが、活動に参加できる機会が徐々に増えてきましたら、積極的に参加し交流の輪を広げ、プライベートでの充実も図っていきたいと考えています。

## 対沖縄ミカン貿易が「あらた会」 先輩方の助力で甦る

鹿児島あらた会 八幡 正則（農S26卒）

半世紀も前、沖縄はアメリカ軍の軍政下であり、すべて外国扱いだった。昭和41年の夏、私はミカン産地の農協長4人と鴨池空港からプロペラ機で沖縄に向かった。いきさつはこうである。

鹿児島のミカン産地は、戦前から業者ルートでミカンをおくっていた。戦争で一時中断したものの戦後、業者はいち早くミカンをおく始めた。経済連も「一元集荷多元販売」を進めて、産地バラバラの業者任せの販売を、昭和40年に一元集荷して初出荷した。ところが、那覇港に着いたミカンに腐敗果が出たのでパイヤーからの苦情が殺到した。一元集荷に同意したミカン産地からも「経済連任せではダメだ。元に戻せ」という声が上がってきた。

悪いことは重なるもので、丁度そのとき、果樹園芸



課小倉出張所の所長が融通手形を振り出した事件が発生し、マスコミを賑わす大騒動に発展した。結果は部課長が更迭され、後始末に引っ張り出されたのが、中央会経営監査課に居た私である。

騒動で先送りされている案件のうち、切迫しているのが沖縄貿易ミカンの腐れ問題である。トップの参事はすぐには修復し難いとあきらめ顔である。しかし、折角手掛けた一元集荷を1回きりで止めるのは経済連の信用に関わる。さて、新米課長はどうする？業者依存のルートには頼れない。

幸いに、級友石川登希夫君が那覇で貿易関係の仕事をしている。彼は昭和2年農芸化学科卒の大先輩石川栄良さん（泡盛会社の社長、宜野湾市教育長）に信用されて愛嬢汎子さんを伴侶にしていた。すぐに連絡した所、彼は先輩方に八幡が来島する用件を話し、とくに当銘由憲さん（農科昭和15年卒、沖縄民政府の局長、のちに県農協中央会長）と森田郁太郎さん（農科20年卒、沖縄農連・専務）からは示唆を頂いて逐一私に連絡してくれた。ビザの滞在期間1週間を大車輪で駆け回り、腐れミカンの出たことを率直にお詫びしつつ、日本へ復帰後の隣県同志の未来志向を訴え続けた結果、前年通り経済連扱いでよいとなった。まことに有り難く、新米課長の評価も上がった。ひとえに「あらた会」同志先輩方の助力の賜物であり、今なお感謝にたえない。

## 農業土木の展望

鹿児島あらた会 吉嶺 彰二（工S52卒）  
（株サタコンサルタンツ）

1 序（自己紹介と農業土木への思い）

私は、S52年の当時の農業工学（農業土木専攻）を卒業し、2年間大学院へ進学し、鹿児島県庁の農業土木職員として就職し、平成26年度末で退職しました。

その後、鹿児島県内の民間建設コンサルタンツで、現在6年間従事しております。

県庁の農業土木職員は昔から退職を機に、民間のコンサルタンツに再就職する方が多く、私も例外なく再



就職しております。何故かと申しますと、年金や健康の問題もありますが、農業土木に従事していた者は、民間でも公務員の世界でも、技術力の研鑽に非常に前向きであるということと、後輩への技術の伝承、更には農業県鹿児島へ少しでも貢献したいという気持ちだと認識しております。

また、瑞穂の国と言われる日本では、弥生期の稲作文化の頃より農業用水即ち、「田へ水を導く」という慣習が行われており、日本の歴史的農業遺産となっている「井堰」、「ため池」や「水路」は農業土木の技術の進歩に伴い、完成されて来たものと思われまふ。よって、土木の基礎は農業土木にあるとの思いが、農業土木技術者の中にあり、長年培われていると思いまふ。

2 農業の現状と課題（ICT利活用）

農業の分野では情報のデジタル化とICTやロボット、AI等を活用した先端技術の社会実装が2014年から始まり、「スマート農業」という言葉で、鹿児島県内でも取り組みが始まっております。所謂、自動走行トラクターや自動運転田植え機、収穫機であり、特に

農業土木では、水田の水管理を遠隔・自動制御化する圃場水管理システムの導入が拡大しております。更には、農業者の高齢化や担い手不足の状況では、農業の達人と言われる方々の経験や勘に頼る農業ではなく、地球温暖化に応じた気象や作物生育の予測情報に基づく最適な栽培管理技術や生産から流通、消費までの一貫したデータ活用によるスマートフードチェーンの構築など、農業の産業生産力の強化に向けた技術開発を一層加速させる動きもあります。また、自然災害に対して強靱な地域社会やwith/afterCOVID-19に於ける地域分散型社会の要請もあり、再生可能エネルギーを活用したエネルギー自立型農村の構築などのように、これまでのICT利活用に留まらず、農業と農村社会を一体的にDX（デジタルトランスフォーメーション）す

ることが求められております。

### 3 今後の農業土木（農業農村整備）の展望

農業土木（農業農村整備）の分野では、国で新たな土地改良長期計画の策定が進められています。令和3年からの5か年計画で、Society5.0を地域社会へ浸透させ、20年後の日本の国土、経済社会、農業・農村を創造することが目標となります。

今後は農業農村整備事業の調査・計画から設計、施工、点検・管理までのあらゆる情報をデジタル化し、ICTで一貫活用することで農業者や施設管理者への見える化を図り、施設整備の高品質・低コストを実現し、インフラ情報と生産現場情報を連携させることで、農業生産性向上と環境配慮・保全を図ることが重要と思料されます。

## 「福岡ソフトバンクホークス・イチ押し」～「4年連続日本一」に寄せて～

鹿児島あらた会 鯨坂 明彦（園芸S57卒）

2020年は、プロスポーツ界がコロナ禍「新しい様式」で試合を開催しました。私の愛する日本プロ野球の開幕は3か月遅れの6月19日、当初は無観客のスタートでした。

その後も、上限5千人程度の観客でペナントレースは各チーム120試合の開催。私のイチ押し・ホークスはパ・リーグで3年ぶりに優勝して、日本シリーズでは11月25日セ・リーグ王者の東京読売巨人軍を無敗で破り、日本一を勝ち取りました。

無事に全試合を行うことができたことに加え、コロナ禍で気持ちが沈みがちな九州や全国のホークスファンは、4年連続のチャンピオンフラッグに歓喜した昨年でした。

ホークスの魅力は、個性的な選手たちが独特のチームワークで、相手ペースで進む試合展開であっても逆転していける底力にあると思います。活躍する生え抜きの選手や外国人選手はもちろんですが、育成選手出身者（千賀投手や甲斐捕手など）がレギュラーとなり、「福岡ドリーム」をつかみ取るような近年の傾向も、決して見逃せません。

ここから、私の推しメン3選手を紹介します。「最員の引き倒し」=大半は個人の感想ですので、笑って（または、あきれて）お許し下さい。

【周東佑京（しゅうとう・うきょう）内野手】 この2年間でブレイクしたパ・リーグ随一の俊足ランナー。昨シーズン 50盗塁で育成選手初の盗塁王に輝

き、出塁すれば2塁盗塁は当然。3塁まで進塁すれば浅い外野フライでも楽々生還し、相手バッテリーが戦々恐々。塁に出ただけでファンが注目します。余談～24歳イケメンで、新婚さんです…（笑）。

【柳田悠岐（やなぎた・ゆうき）外野手】 通称は「ギータ」。規格外の長打力で、フルスイングからの打球は、バットが折れようがスタンドインする身体能力は凄い。どんな試合でも、球場の雰囲気を一気に上げるホームランは、実際に見ると言い表せない引力有り。

【モイネロ投手】 試合終盤の7回、8回到登板する救援陣の柱の1人。150キロ超のストレートと、左打者が腰を引くほど鋭いカーブで三振のヤマを築きます。キューバの出身で、ドレッドヘアなど髪型にも冒険者？の香りが…（笑）。

来たる2021年シーズン。1回でも多く勝利の応援歌「いざゆけ若鷹軍団」を歌えるよう、そしてコロナ禍を乗り越え、球場でナマの声援を送れるような球春を待つ日々。これをファン一同で迎え入れることが、今の何よりの希望です。



2019年2月 春季キャンプ 於：宮崎市生目の杜運動公園

## 退職後1年 何ごともほどほどが一番

鹿児島あらた会 熊本 修 (園芸S59卒)

令和2年3月これまで勤めていた県庁を定年退職した。それまでのプレッシャー（あまり感じていなかったけど）からの解放。楽しくないはずはないと思っていた。しかし、現実はその甘くはない。仕事をやめても働かないと年金生活まで先は長い。再任用職員としてそのまま県庁に留まる職員は多い。私は退職後現場で農家を支援する指導員になりたいと考えていた。そんな矢先に、さつま町から営農専門指導員にこないかと声がかかった。さつま町は過去にも県職員OBを指導員として採用した時期があり、果樹の指導者を探していたようである。余談であるが、私の義父も県を退職後さつま町にお世話になったことがある。これも何かの縁ではないかと思ひながら、二つ返事で引き受けた。

さつま町は鹿児島県北の内陸部に位置し、盆地の地形も影響するのか夏は蒸し暑く、冬は底冷えするほど寒い場所である。ところが、栽培されている果樹の種類が多い。温州ミカン、ハウスキンカンのカンキツ類をはじめとして、ウメ、ブドウ、ナシなどの落葉果樹や熱帯果樹であるマンゴーまで、まるで鹿児島県果樹産地の縮図のような場所である。これはやりがいがあると張り切って出勤した。

私の主な仕事は、樹種ごとに隔月開催される栽培講習会の講師や農園の巡回、庭先果樹のよろず相談対応まで多種多様である。栽培講習会の資料作成や説明の他剪定や摘果などの実践指導もやっている。結構ハードな仕事であるが現場は楽しい。ところがある日、ウメの剪定で農家を巡回しながら枝を切っていると腕や肩が悲鳴を上げ針灸治療院に通う羽目になった。そこで整体師の先生が一言。「熊本さん、若い頃のようにやったらダメだよ」。そうか無理は効かないんだ、ほどほどが一番。それからは得意の口上！？を武器に実践はほどほどに指導している。

私生活では休みが増えたので、趣味のサイクリングを再び始めた。退職記念に妻が買ってくれたロードバイクに乗って、嬉しさのあまり休みの度にツーリング

に出かけていた。ある日坂をゼイゼイ言いながら登っていると、突然ふくらはぎがつって走れなくなった。再び治療に行くと、整体師の先生が「仕事も趣味も一緒ですよ。若い頃のようにやったらダメだよ」と一言。妻からも「学習できてないよね」。そうか無理したらいけないんだ、ほどほどにしないと。それからは坂は避けて走るようにしている。元気な諸先輩方を前にして恥ずかしい話だが、体力の衰えは日々痛感している。

今は新型コロナの感染拡大により、大人数の飲食自粛、様々なイベントの中止や規模縮小が求められ、何とも窮屈な世の中である。あらた同窓会も開催できないと聞いている。このような状況がいつまでも続くとは思えないが、今は各自が自分で楽しみを見つけながら、いつかコロナ禍が懐かしく思える時代が来ることを心から祈っている。皆さん、もう一踏ん張り頑張りましょう…ほどほどに！



趣味のサイクリング (場所：いちき串木野市羽島)



マンゴーの栽培指導 (場所：薩摩郡さつま町)

## 在宅勤務と遠隔管理

鹿児島あらた会 福山 誠 (林S63卒)  
(国際航業株式会社・海外コンサルティング部)

新型コロナウイルスの感染が世界中で流行し始めてから約1年が過ぎようとしている。思い起こせば、昨年3月に出張先のソロモン諸島国に滞在中、コロナ禍の影響で日本への中継地であるブリスベン（オーストラリア）やマニラ（フィリピン）が封鎖されたという情報に接し、このままでは帰国できない状態に陥るとの判断から急遽帰国を早め、ポートモレスビー（パプアニューギニア）とシンガポールを経由してだいぶ遠回りで帰国する羽目になった。

それ以降、ほぼ1年間全く海外渡航することなく、国内にて業務を続けている。本学林学科を1988年（昭和63年）に卒業し、すぐに青年海外協力隊に入隊しタンザニアに派遣されて以降昨年まで、1年間まるまる海外に出なかった年はないので、33年ぶりの体験である。

在宅勤務、今で言うテレワークは、この10年余り鹿児島をベースに仕事をしているので実は初めてではない。よく言われるように、在宅勤務には通勤時間が削減できる、勤務時間を柔軟に設定できるといったメリットは当然ある。しかし、同僚とちょっとしたことで相談したくても、同僚も複数のプロジェクトを抱えているため電話をするのは憚られ、かといってメールでやり取りするにも手間がかかるし、或いはZoom等のWeb会議ツールを使うにしても、その時間調整等にまた余計な手間と時間を要するなど、笑うに笑えぬジレンマ状態に陥ることもある。一方で、いつでも会社のネットワークに接続可能なので、夜間でもメールの返信をしたりということになりかねないので、自分できっちり時間を決めて業務時間を管理することがワークライフバランスの観点からも肝要である。

他方で、自分が関わるソロモンでの持続的森林資源管理プロジェクトでは活動が進捗中であるため、日本に居ながらにして遠隔でその活動を管理する必要がある。実際に現場で活動を推進するのは対象地域の住民

であるが、それを支援するのが林業省の職員とプロジェクトのローカルスタッフ、更にその職員たちを監理・指導するのが我々日本人コンサルタントという実施体制である。現地に出張できれば、省職員やローカルスタッフと共に、時々地域住民とも直接向き合い、活動の進捗をモニタリングしたり、その結果に基づき活動の修正・追加などを検討したりと、いわゆるPDCAサイクルを実感を伴った感覚で回すことが可能ではある。しかし現在は、Web会議ツールがあるとは言え、通信事情が悪い上に、ローカルスタッフなどから間接的に報告・連絡を受けても、真の現場の状況を把握できているのかもどかしさや不安感は尽きない。また、それよりも深刻なのが、遠隔管理での仕事は気がない、つまらないと感じること、そしてモチベーションを保つのが困難であることも知れない。それはやはり我々の仕事の醍醐味というのは、自然（特に森林を含む農村資源）とそれに関わる人々を相手にして、より良い自然環境や社会経済環境を創り出していくことに他ならないからであろう。遠隔管理ではそのようなダイナミックな仕事は望むべくもなく、「答えは全て現場にある」と自分に言い聞かせてこれまで仕事に打ち込んできた身にとっては、自分の長所を活かすことができず、成果を十分に上げることができないのではと危惧している。

コロナ禍が過ぎ去った後の世界は以前のものとは別物となるなどといった予測もされているが、以上のような理由からも、一日も早くコロナ禍が終息し、現場で地に足を付けた仕事ができる日を待ち望んでいる。



ソロモン諸島国にて（向かって左端が筆者）

## 鹿児島生活6年目を迎えて

鹿児島あらた会 眞茅 拓実 (生産H31卒)

東京から鹿児島大学進学を機に鹿児島での生活をはじめ、6年目を迎えました。私は、現在、鹿児島市役所で社会人生活をスタートさせ2年が経とうとしています。仕事は地域振興や環境衛生に関わる業務など職場の方々に支えられながら携わっています。その中で



もウミガメ関係の業務は印象深いもので、喜入地域の海岸には定期的にウミガメの産卵が行われており、孵化の時期を迎えたところで、地域住民と放流会を実施し、たくさんの方々と喜びを共有することができたことは貴重な経験となりました。今後は、鹿児島ユナイ

テッドFCが喜入地域にトレーニング施設を設立するというので、地域が賑やかになってくれることを願うばかりです。最近では、6年前から始めたマラソンの他に、知人の紹介でソフトテニス进行しく始めました。硬式テニスを経験していたので自信はあったのですが、同じテニスなのに打ち方やボールの変化など全く異なるスポーツでアドバイスを積極的にもらいながら公式戦勝利を目指し、日々練習に精進しています。

社会人生活で感じることは、人とのつながりは大切であるということです。大学から鹿児島での生活を開始したこともあり、知人が少なく、あらた同窓生、職場の優しい上司や同期など関わりを持った方々とのつながりは大事にしようと日々過ごしています。もちろん、学生時代の友人との交流も欠かしていません。先日は大学時代の友人と久しぶりに会い、農業実習や沖永良部島での研修など当時の学生生活や近況についての話で盛り上がりました。

最後に、7年目も自分を支えてくれている方々へ感謝の気持ちを忘れず、健康面に気を付けながら、業務に取り組み、毎日楽しく過ごしたいと思います。

## 学生便り(卒業・修了にあたって)



### 吹奏楽と共にあった4年間

農業生産科学科 食料農業経済学コース  
農業経済学研究室 学部4年  
岩田 梨奈

私の4年間の大学生活を振り返ってみると、吹奏楽の存在はとても大きなものでした。

私は小学校4年生のときに初めてトランペットに触れ、そこから中学3年生まで吹奏楽部員として活動していましたが、高校生の時は違う部活に挑戦しました。しかし大学に入学した際、やっぱり吹奏楽が好きだと思い吹奏楽団に入団しました。

吹奏楽団は週に4日練習がありますが、あくまで大学生のサークル活動なので、活動時間以外に個人練習をしたとしても毎日部活動をしていた中学生や高校生の頃と比べると練習量は格段に劣ります。そのため昔の方がもっとよく吹けたのという思いは4年間消えませんでした。それでも1人で演奏することでは得られない楽しさを誰かと一緒に曲を吹くことで実感できたことは何事にも代えがたいと思っ

ています。

また、吹奏楽団に所属する中で役員を務めることができたのは本当に貴重な経験だったと思います。きついこともたくさんありましたが、役員として吹奏楽団の運営に関われたことはこれから社会に出るうえでも大きな糧となりました。今年度は行事のほとんどが中止となり、学生生活最後の年の活動をやりきったという思いで終えることができないのはとても残念です。しかし、大学生活を何もない生活にするのではなく、吹奏楽を中心に意味のあるものにできたことは本当に良かったです。

私は卒業したら4月から地元の熊本で県職員として働く予定です。同じ県職員である父や弟の帰宅時間を見る限りとても忙しそうなのですが、まだ吹きたい曲がたくさんあるので吹奏楽は続けていけたらと思っています。

最後になりますが、吹奏楽に打ち込める環境を作ってくださった顧問の先生方や鹿吹OBの方々、素敵な演奏をしてくれる団員のみんな、あとき楽器を買ってくれた両親、本当にありがとうございました。



## 大学4年間を振り返って

農業生産科学科 応用植物科学コース  
作物学研究室 学部4年

藤本 水緒

大学生活を振り返ってみると、この4年間は長かったようであつという間だった気がします。入学した頃は初めての土地や一人暮らしに対する不安を抱いていたことを思い出し、今では懐かしく感じています。大学での授業や研究、部活動、アルバイト、就職活動を通じて多くのことを経験し、様々な人と出会い、充実した学生生活を送ることができました。

中でも大学での部活動は、15年間のバドミントン人生の中でもより濃い時間だったように思います。沢山の時間と自由がある大学生活の中で、バドミントンが大好きな仲間とバドミントンに打ち込めたことは本当に幸せでした。部活動は週4日、3時間半体育館を使うことができ、年8回ある大会で結果を出すことを目標に掲げながら日々練習に励んでいました。2年生でのリーグ戦大会で2部優勝し、1部に昇格できたときは練習を頑張ってきて良かったと心から思いました。部活動の後に一緒にご飯を食べに行ったこと、大学祭の出し物の準備をみんなで行ったこと、部活内のイベントでドライブをしたことなど、部活動の仲間と大学生活の半分以上を過ごしたことは私にとって大切な思い出です。年に4回ある遠征では、試合が終わった後にみんなで観光することが恒例だったことも楽しかった思い出です。辛いこと苦しいことも含めて、バドミントンを通して多くの経験をする事ができたことを幸せに思います。

充実した大学生活を送れたと自信を持って言えるのは、自分のやりたいことにしっかりと打ち込むことができたからです。大学に入学してからこれまで本当にたくさんの人たちに支えられてきました。関わってくれた全ての人たちに心の底から感謝しています。大学で学んだことを活かして、春からは新社会人として大きく成長していきたいと思ひます。



## 鹿児島での2年間

農林水産学研究科 食品創成科学専攻 焼酎発酵・微生物科学コース  
焼酎製造学研究室 修士2年

小橋 有輝

私は、他大学から鹿児島大学大学院に進学し、鹿児島の代表的特産品でもある「焼酎」について研究しております。卒業に際し、初めて鹿児島の地で感じたことや、研究を通じて学んだことを振り返ってみようと思ひます。

初めての鹿児島は本当に新鮮なことだらけでした。特に、錦江湾に堂々と佇む桜島はまさに圧巻でした。本物の火山の噴火を見たことのない私は、目の前の桜島を見て大興奮で写真を撮りました。しかしそんな桜島の噴火も、鹿児島県民からすればいつものことだと聞かされ驚いたことを今でも覚えております。それから2年の歳月を経て、気づけば私も噴火する桜島を見て「これが日常」と感じる鹿児島人の端くれになりました。

そんな私が修士課程2年間で学んだことは、「研究は予想通りにいかなくなってからが勝負」ということです。仮説を立てて、実験によりそれを証明していく中で、予想通りの結果が出なかったとき、なぜこのような結果になったのか？逆にこの結果から何が言えるのか？と考えることから新しい発見や仮説が生まれることがあります。私自身、研究の中でこのような局面を何度か経験したことで、予想が外れた、一見ピンチに見えるときこそ「ここから何かを掴み取ってやるぞ！」と逆に自分を奮い立たせることができるようになりました。

鹿児島大学と出会うまで、全く知ることのなかった鹿児島。たくさんの方々と出会いたくさんの学びをいただいた大学院修士課程も、残すところわずかとなりました。振り返ってみればあつという間の2年間でした。新型コロナウイルス感染症の流行による、非常に厳しい自粛生活もあり、時間の流れを余計に早く感じるのかもしれませんが。私は引き続き同研究室で博士課程に進学する予定です。これからもこの第二の故郷で精一杯研究に邁進していきたいと思ひます。





## 激動の4年間

食料生命科学科 食品機能科学コース  
 応用糖質化学研究室 学部4年  
 樋口 千紘

大学4年を振り返るとあっという間でした。

私が鹿児島大学の農学部の食料生命科学科に入学した理由は、食べることが好きで、食品の機能性に興味があったからです。私の所属する学科は3つの教育コースがあり、その中で食品機能科学コースでは食品に直結した学びができる点に惹かれたためこのコースを希望しました。しかし、化学系の科目が多かったため化学が得意ではない私は少し苦労しました。また、学生実験や研究室での実験に関しては、思うような結果が得られないことも多々あり、めげそうになりました。こんな私がなぜ無事に今春卒業できるのかというと、それは周囲の心温かい友人や先生方が寄り添ってくれたおかげだと思います。

勉学以外には、アルバイトや部活動を並行して行いました。入学当初、数あるサークルがある中、吹奏楽部に惹かれ所属しました。大分県出身の私は、慣れない土地で一人暮らしを始め、友人もほとんどいませんでしたが、部員のみなどと家族よりも顔を合わせることになり、いつの間にかそんな寂しさも薄れていました。休日はレンタカーを借りてドライブしたり、飲みに行ったり、様々なコミュニティーで息の合う先輩や同期に恵まれて、楽しい学生生活を送れたと思います。

4年目にして新型コロナウイルスが流行しました。入構禁止期間の研究活動の制限、就活真ただ中の突然の県外移動自粛など生活が制限され戸惑いました。私の研究室選びの決め手の一つとなった毎年恒例のカニ鍋が今年度は食べられなかったことも悔やまれます。しかしそんなことも含め、今から何十年たっても「大学生活楽しかった。鹿児島大学でよかった。」って言ってそうな気がします。



## 4年間の大学生活

農林環境科学科 地域環境システム学コース  
 農業環境システム学研究室 学部4年  
 上田 竣也

私は現在、地域環境システム学コースの農業環境システム学研究室に所属しています。4年間の大学生活はあっという間でした。ここには、私が4年間鹿児島で過ごして感じたことを書いていこうと考えています。

大学生活1年目から親元を離れて初めての一人暮らしが始まりました。今までは、掃除、洗濯、料理などの家事は親がやってくれましたが、一人暮らしではこれらのことを全部自分でやらないといけなく、慣れるまではなかなか面倒でした。また、実家に住んでいる時は、家族の話し声があり賑やかでしたが、一人暮らしでは家の中が静かでさみしさを感じて、意味もなくテレビをつけていたことを覚えています。

また、私は居酒屋のアルバイトを4年間続けてきました。一人暮らしをする上でなるべく親に負担をかけたくないので、基本的な生活費は全部自分でやりくりしてきました。時給が高いという理由で、なんとなく入ったのですが想像以上に忙しくて営業中は汗だくで常に店内を動き回っていました。くたくたになるまで働いた後の賄いはとても美味しく、レシピまで覚えて家でも作っています。しかし、ここ最近はお客さんの数が減ってしまい、なかなか思うように働くことができず、またバイト仲間と働きたいという思いがあります。

大学4年目は、新型コロナウイルスの影響で就活や卒論が思うように進まず、悪戦苦闘の毎日でした。ただ就活に関しては、面接がリモートになったことで交通費がかからなかったので経済的には助かりました。

残りの大学生活は約2ヶ月。この4年間ではいろいろなことがありましたが、どの経験も私にとっては大切な宝物です。残りの大学生活を悔いのないように過ごしていきたいと考えています。



## 石橋は叩きまくって渡るべし

農林水産学研究科 農林資源科学専攻 森林科学コース

森林計画学研究室 修士2年

森部 民恵

鹿児島大学で過ごした7年間、海外研修でブラジルにバングラデシュ、ドイツへ行き、サークルではミャンマーで寮支援や本の寄付。そして1年間のインドネシア留学も経験しました。という私の自己紹介を聞いたあなたは、きっと行動的だな。とか、努力家だろうなと思ったはず（たぶん）。でも、そんな事、ぜんっぜんないんです。人見知りだし、勉強嫌いだし（先生ごめんなさい）。ただ人一倍、自分の知らない世界を見てみたい、知りたいという思いは子どもの頃からありました。そういうわけで、熱帯林を見てみたくて1年間のインドネシア留学も決めました。よく、留学先で何勉強した？と聞かれますが、正直ほとんど遊んでました（笑）終わった今だから言える事ですが、大いに遊んだからこそ、学んだ事、気づいた事が今の人生に役立っています。留学中、一つ決めていた事はなるだけ現地の友達と一緒に過ごす事。休みの度に帰省について行き、様々な島で授業では見る事のできない熱帯林や、生活を経験しました。また、初の一人旅にも挑戦しました。他にも数えきれないほど初めての事に挑戦し、初めての場所に行きました。無鉄砲にも見えますが、実は小心者の私は調べに調べまくって行動に移すタイプなんです。そのおかげで危険な目にもあわず、そして自信を持って挑戦できました。

それなりに辛い事もあった留學生活ですが、お見合いに同席し、今でも結婚相手を紹介してくれるような友達。いつ卒業するの！いつ就職するの！と口うるさく連絡をくれる第二のお母さんがインドネシアにできた事が、私にとって一番の財産です。それも、不安を抱き石橋を必死に叩きながらも、最後には渡るという決断をしてきたからこそ、得られたのだと思います。なので皆さんも、石橋を叩いて叩いて叩きまくって、最後にはえいやっと挑戦してみてください。きっと新しい気付きとすてきな出会いが待っているでしょう。



## 学び続ける人生にしたい

国際食料資源学特別コース

植物栽培・機能学研究室 学部4年

椋島 千春

私はこの春、大学を卒業する予定です。今まで「卒業」というイベントを3回経験してきましたが、今回の「卒業」が、この3回と明らかに違うことを私は感じています。

今までの私は、ただ周りから「勉強するのは大事」とだけ言われるから勉強をやっただけであって、毎日が忙しく、あまり自分の人生や将来についてしっかり考える時間も持てずにいました。しかし、大学に入学してみると、それまでとは違い、自分の時間ができました。自由に使える時間が増えたことを喜ばしく思いながらも、戸惑った覚えがあります。

勉強についても、今まで散々勉強してきたのだから、他の色々なことを楽しもうと思っていたし、実際、大学生活は今までしたことのないような様々な経験をしました。サークル、アルバイトの経験をしたり、一人で外国に行ってみたりもして、そこでしか味わえないような感情を持つこともできました。そして、そういう色々な経験を楽しんでみた後に、気づいたことがありました。

それは、私は結局、勉強、つまり学ぶことが大好きなのだということです。そして、学ぶことで新しい知識が増え見解が広がることは自分にとって楽しいことだということです。今まで決められたことだからやっていた勉強の意味を、私は今、自信を持って答えることができます。

私は卒業したら社会人になるので、大学というのが最後の教育機関、学ぶ場です。しかし、私にとって学ぶことは楽しいことであるので、私はこれからも、学ぶことを絶対にやめません。

4回目となる「卒業」は、次のステップに進んでも、新しいことを勉強し、その環境で「学び続けたい」という強い思いを持って迎えることができそうです。これが、私の今までの「卒業」とガラリと違うところだと思います。私は一生学び続ける人生にしたいと思っています。

## 恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報

- 【定年退職】 梶井 和朗 令和3年3月31日付  
 (農林環境科学科 地域環境システム学コース・利水工学分野 教授)  
 芝山 道郎 令和3年3月31日付  
 (農林環境科学科 地域環境システム学コース・環境情報システム学分野 教授)
- 【昇任】 なし  
 【新任】 なし
- 【受賞】 野口 英昭 (林S31卒) 令和2年4月6日：静岡県知事感謝状  
 (判明分のみ) 李 哉泓 (農業生産科学科) 令和2年5月31日：2020年度日本農業経済学会学術賞  
 李 哉泓、森嶋 輝也、清野 誠喜  
 (農業生産科学科) 令和2年5月31日：2020年度日本農業経済学会学会誌賞  
 寺本 行芳 (農林環境科学科) 令和2年9月18日：日本緑化工学会賞技術奨励賞  
 加治屋 勝子 (食料生命科学科) 令和2年12月12日：杉田玄白賞第19回奨励賞

### 物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名
梶井 功	旧賛助会員	R.1.7.2	東京都八王子市めじろ台 4-46-1
今永 正明	旧賛助会員	R.3.1.10	静岡県静岡市葵区北安東 3-25-20-201 夫人
中野 伸	農昭17	R.2.4.6	福岡県久留米市山本町豊田 204-1 令嬢
畑添 雅男	農昭22	R.1.12.13	福岡県筑紫郡那珂川町片縄西 3-1-10 夫人 美恵子
岩元 保	農昭22	R.2.4.10	鹿児島市原良 3-7-10 子息
三木 文雄	農昭23	R.2.3.5	鹿児島市加治屋町 9-4 夫人
橋元 通昭	農昭23	R.2.5.6	鹿児島市紫原 1-12-5 子息 隆史
岡村 克郎	農昭23	H.30.12.	鹿児島市坂之上 8-14-46
玉利 半三	農昭23	R.2.12.6	鹿児島市西田 2-16-27 夫人 あつ子
安田 秀穂	農昭24	R.1.8.25	千葉県八千代市上高野 1292-39 子息 秀司
西川 淳	農昭38	R.1.11.	熊本県玉名市岱明町山下 452-4
吉川 節郎	農昭38	R.2.8.	鹿児島県垂水市田神 2617-12
脇 秀一郎	農昭41	R.2.6.19	鹿児島市吉野 1-26-15 夫人 敏子
土永 博	林昭18	R.2.4.	大阪府堺市西区上野芝向ヶ丘町 6-14-16 令嬢 桜井智恵子
金子 章	林昭18	R.1.6.25	愛媛県松山市来住町 548 子息 三綱
山本 稔	林昭22	R.2.1.14	兵庫県高砂市米田町古新 310 ラポール東高砂 304 子息 晃嗣
永飯 肇	林昭30	H.30.2.8	鹿児島市上之園町 14-17 令嬢
竹中 淳二	林昭32	R.2.5.27	北海道札幌市西区発寒 1条 4-3-21 子息 正彦
永友 勇太郎	林昭33	H.30.2.23	宮崎県小林市本町 14 夫人 寛子
金子 義幸	林昭34	H.30.10.13	長崎県島原市田町 747-2 夫人 和子
板垣 治	林昭45	R.1.11.11	埼玉県さいたま市西区指扇 1118-19 夫人 葉子
上野 康典	林昭60	R.1.9.13	大分県国東市国東町富来 2381 妹 葦苅文恵
小山田 正彦	農化昭23	H.31.1.11	鹿児島県始良市蒲生町上久徳 2537 夫人 ユウコ
津野 林士	農化昭23	R.2.1.	大分市羽田 14-1 B
本村 栄一	農化昭28	H.30.6.20	鹿児島市東坂元 4-40-6 夫人
有川 弘道	農化昭30		島根県益田市久城町 467-5 令嬢
川野 竜一	農化平2	R.1.7.23	鹿児島市小松原 1-15-5-207 妹
巢山 弘明	繊維昭23	R.1.12.30	熊本市中央区黒髪 6-19-8 令嬢
内田 照章	獣昭22	R.2.2.25	福岡市東区原田 2-29-14
栗崎 義生	獣昭23	H.30.4.16	福岡県直方市大字頓野 3916-17
久保田 稔	獣昭24	R.1.11.3	鹿児島県熊毛郡中種子町野間 6943 夫人
上島 義弘	獣昭36	R.2.9.15	兵庫県加古川市米田町船頭 487-38 夫人
江崎 博	獣昭38	R.1.12.5	兵庫県西宮市高須町 1-1-10-1002 子息 充浩
重本 重典	獣昭38	R.3.1.31	夫人
松元 正治	獣昭39	R.1.12.17	鹿児島市伊敷 2-14-12 夫人 節子
尾原 安雄	総昭34	R.2.5.19	鹿児島市光山 1-21-12 夫人
井川 春夫	総昭36	R.1.12.22	鹿児島県薩摩川内市樋脇町市比野 8515 夫人 隆子
東 正隆	総昭38	R.2.7.18	熊本県山鹿市菊鹿町池永 1083-4 夫人 雅子
関田 徳弘	総昭40	R.1.10.	宮崎県えびの市小田 439-1 夫人
塚田 正明	農工昭49	H.30.8.24	熊本県菊池郡菊陽町光の森 2-8-5 夫人 昭子

## 本 部 便 り

### I. はじめに

一昨年（令和元年）11月23日に「ジェイドガーデンパレス」に於いて「鹿児島大学農学部あらた同窓会令和元年度総会」と「鹿児島大学農学部開学110周年ミニ式典」を82人の来賓および会員の出席で開催しました。同時に、農学部開学100周年記念式典を機に創設して5年ごとに実施してきた「あらた同窓会功労者表彰」も行い、盛大な懇親会を行ったのがついこの前のような気がしています。その時には次の年（令和2年）の総会も例年通りに開催できるものと信じていました。しかし、昨年の2月に入ると「新型コロナウイルス感染症」の発生、WHOのパンデミック宣言が発せられ、我が国でも「新型コロナウイルス」陽性者の拡大により、人が集まるような行事が次々と縮小・延期・中止になりました。母校鹿児島大学も令和元年度卒業式と令和2年度入学式が縮小されました。このような「新型コロナウイルス感染症」は未だに終息しておらず、「コロナ禍」、「自粛」、「新しい生活様式」などの言葉が日常的に使われるようになりました。そして、「農学部あらた同窓会」も他の多くの人が集まる行事と同様に「総会」を中止し、令和元年度の事業・会計報告などの審議や令和2年度の評議員会を郵送やメール等を利用する「書面審議」形式で行わざるを得なくなり、書面審議で行った評議員会および総会の議題は無事に承認されました。その結果を「鹿児島大学農学部あらた同窓会報令和3年春季号」に掲載し、全国の会員に周知することにいたしました。また、これまで例年農学部と共催で行ってきた「卒業・修了祝賀会」や「学生向け講演会」なども行うことができませんでした。幸いなことに、毎年2回発行している「農学部あらた同窓会報」（11月23日に発行の学生会員向け「令和2年秋季号」と3月25日（卒業式の日）発行の一般会員向け「令和3年春季号」）および「令和3年3月（令和2年度）卒業生・修了生名簿」については、あらた同窓会役員、学内幹事および各支部事務局のご協力が無事に発行できました。

そのような状況下で行われた同窓会活動について、以下に記載し全国のあらた同窓会会員にご報告申し上げます。なお、「あらた同窓会」活動にご意見がある方は事務局（裏表紙に記載）にメール、電話、郵便などでご連絡いただきますようお願い申し

上げます。

以上、会員の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

### II. 事業及び会計に関する報告

#### 1. 令和元年度事業および会計等に関する報告

（会計年度：令和元年10月1日～令和2年9月30日）

##### 1) 令和2年度総会

○開催日：令和2年11月9日(月)～11月20日(金)

○形式：書面会議

先に述べたように「新型コロナウイルス感染症」拡大により、対面での総会は中止として、学内幹事および評議員を主要な対象とした「書面審議」で行いました。

書面会議の協議事項は以下のとおりでした。

- (1) 令和元年度事業報告（案）について
- (2) 令和元年度の「一般会計収支決算（案）」、「名簿特別会計収支決算（案）」および「功労者表彰特別会計収支決算（案）」について
- (3) 令和元年度会計監査報告について
- (4) 令和2年度事業計画（案）について
- (5) 令和2年度の「一般会計収支予算（案）」、「名簿特別会計収支予算（案）」および「功労者表彰特別会計収支予算（案）」について
- (6) 役員交代・改選（案）について
- (7) その他

書面審議はメールおよび郵送で役員（会長他学内幹事、評議員等）58人に送付し、49人から賛成をいただきました（未回答9人）。

##### 2) 令和2年度評議員会

上記のとおり、令和2年度評議員会は「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響で書面会議で行い、異議なく承認されました。承認された審議事項は以下のとおりです。（1）令和元年度の事業報告（案）、一般会計収支決算（案）、名簿特別会計収支決算（案）、功労者表彰特別会計収支決算（案）。（2）令和2年度の事業計画（案）、一般会計予算（案）、名簿特別会計予算（案）および功労者表彰特別会計予算（案）、（3）役員交代・改選（案）。

書面審議は、総会と同様にメールおよび郵送で役員（会長他学内幹事、評議員等）58人に送付し、49人から賛成をいただきました（未回答9人）。

##### 3) 常任幹事会及び幹事会

令和元年度の常任幹事会及び幹事会は、対面の会議1回、メールによる会議2回の合計3回開催し、あらた同窓会報（春季号と秋季号）の編集および発行、令和2年度の評議員会並びに総会に付議する議案書等の作成について協議しました。さらに、令和2年8月6日の第3回幹事会では、「新型コロナウイルス」感染拡大により鹿児島大学の「学生の授業の方法」を含む教育・研究方針が前年までと大きく変更されている中で、8月以降の「あらた同窓会活動」について種々協議し、以下のような意見をまとめ、会長および副会長の承認を得ることにいたしました。

- (1) 学生向け講演会の開催について：9月末まで開催できるかどうか協議した結果、学生の授業がオンライン（遠隔授業）主体であり、かつ9月30日まで夏休みであることから令和元年度は中止する。
- (2) あらた同窓会報（学生向け）令和2年秋季号（11/23発行）について：従前どおりの日程で発行する。ただし、インターンシップ・介護体験記等については体験者がいないことから掲載を中止する。農学部FD委員長の藤田清貴先生に「遠隔授業あれこれ」（仮題、遠隔授業についての考え）を、農学部附属施設（附属農場、附属演習林、附属焼酎発酵学教育研究センター）紹介の寄稿を各施設長に会長名で依頼する。
- (3) 評議員会（例年11月上旬開催）について：郵送により書面審議とする。
- (4) 総会・懇親会：ジェイドガーデンパレスが閉館したこともあり、懇親会は中止する。総会は開催すべきであるが、新型コロナウイルスの状況を鑑み、役員（評議員および学内幹事等）への郵送による書面審議とし、「あらた同窓会報令和3年春季号の「本部便り」」にその旨を明記することにする。

以上について、8月7日に会長および3人の副会長にメールの添付ファイルにて幹事会議事録（案）を送付し、承認を得ました。

令和2年度の常任幹事会及び幹事会については、昨今の状況を鑑み、メールおよび対面で臨機応変に行うことにいたします。

#### 4) 会計監査

令和元年度の会計監査は、令和2年10月26日（月）に黒木讓二、菊川明及び下川悦郎の3監事によって実施され、本会の事業及び会計事務が適切に執行されている旨の監査報告書が藤田会長に提出されました（会計監査報告については30ページ記

載）。

令和2年度の会計監査は令和3年10月中に実施します。

#### 5) 会報の発行と送付数

鹿児島大学農学部あらた同窓会報は、3月25日に春季会報（全会員向け）、11月23日に秋季会報（主として学生会員向け）を発行しています。このうち、令和2年秋季会報については令和2年11月23日に発行し、学生会員、教員および役員に配布しました。加えて地域支部総会時に出席者に配布する予定です。令和3年春季会報は、令和3年3月25日に発行します。頒布については、「直近5年間の会費納入者」、「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」、「賛助会員」及び「学生会員」並びに平成29年度評議員会および総会で承認された「可能な限り多くの会員に農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報など情報をお届けする」という趣旨で卒業後5（H.28卒）、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55（S.41卒）年を経過した5年毎の連絡先が判明している人に送付・頒布します。送付にあたっては、例年通り「会費納入振込用紙」を同封します。なお、会費振込用紙を同封しない、終身会員、80歳以上の会費免除者および旧賛助会員宛には、同窓会活動の活性化に役立てるための「賛助金」を募集することにします。

#### 6) あらた同窓会経理について

平成29年度から会費納入を郵便局に加えてコンビニでも入金できるようにしたこと、平成29年度以降「春季号」の送付時に、終身会員、80歳以上の会費免除者および旧賛助会員に「賛助金」のご協力をお願いした結果、毎年多数の会員から賛助金をいただいたこと等により同窓会経理はかなり改善しました。加えて令和2年2月から「新型コロナウイルス」感染拡大により、農学部卒業祝賀会や各支部の総会が中止になった結果、支出が減少し、令和元年度決算の繰越金が大きくなっております。今後は「新しい生活様式」が提唱される中、「あらた同窓会」としても「年2回の会報発行」は継続しつつ、農学部在学学生を含む多くの同窓生に向けた積極的な同窓会活動を見出していく必要があると思います。学内幹事会で素案を作成し、評議員会、総会で協議・検討し、各支部と連携・協力して活動の活性化を図っていきたくと考えております。なお、令和3年2月5日までの「賛助金および寄付者」（合計231人）のご芳名は28ページに記載してあります。

なお、令和元年度の「一般会計決算書」、「同窓会名簿特別会計決算書」、「功労者表彰特別会計決算書」、「あらた同窓会資産表」および「監査報告

書」は本号29～30ページに記載してあります。

また、令和2年度の「一般会計予算書」、「同窓会名簿特別会計予算書」および「功労者表彰特別会計予算書」は本号31ページに記載してあります。

#### 7) 学生向け講演会

例年実施している本会と農学部共催の「学生向け講演会」については、先に記載したように「新型コロナウイルスによる鹿児島大学の遠隔授業の実施」方針等を勧告して、幹事会で協議の結果、令和元年度の実施は中止しました。

#### 8) 地域支部との交流

「あらた同窓会」本部では、地域支部から役員派遣の要請を受けた場合、その支部総会に役員を派遣して本学および学部や同窓会の近況を報告するとともに、会員との交流を図ることにしていますが、令和2年4月以降の「新型コロナウイルス」感染拡大による政府の緊急事態宣言以来、各支部総会は軒並み中止になりました。なお、令和2年度は既に令和2年11月14日の「佐賀あらた会現役会」に役員を派遣しております。

#### 9) 『鹿大「進取の精神」支援基金』への取り組みについて(再掲)

平成29年度に『鹿大「進取の精神」支援基金』として300万円を一括寄付しました。そのうち150万円は平成28年度一般会計の剰余金から拠出し、残りの150万円については基金特別会計から150万円を一時借用しました。基金特別会計から一時借用した、150万円については年次計画で一般会計から返還するこ

とにし、平成30年度に50万円、令和元年度に50万円を返還しました。残りの50万円については令和2年度一般会計から返還します。

#### 10) 鹿児島大学同窓会連合会

鹿児島大学同窓会連合会では、「新型コロナウイルス」感染拡大のために令和2年度鹿児島大学入学式が大幅に縮小されたこと等の理由から令和2年度総会および懇親会が中止されました。同窓会連合会役員会も「令和元年度第3回役員会」が令和2年3月18日開催されて以降行われておらず、「令和2年度の事業計画(案)および予算(案)」については当初「暫定」執行を行い、8月に書面審議で承認されました。また、今年から鹿児島大学が開始する予定であった「ホームカミングデイ」も中止となり、同窓会連合会としての連携・協力は次年度以降に持ち越しになりました。ただ、2015年から同窓会連合会が協力している「きばいやんせ鹿大生2020」については卒業生が協力して遠隔で実施できました。同窓会連合会では、年間2回の会報を定期発行しており、「あらた同窓会」としても毎号寄稿しており、印刷物は本部総会及び地域支部総会時に出席者に頒布することになっています。

今後も鹿児島大学同窓会連合会の活動には、構成学部同窓会の一つとして「あらた同窓会」も積極的に参加していきたいと思えます。

#### 11) その他

特にありません。



賛助金および寄付者ご芳名 (令和2年2月20日～令和3年2月5日)

学科卒年	氏名
旧賛助	青木孝良
旧賛助	岩堀修一
旧賛助	大林晃
旧賛助	小崎格
旧賛助	田邊幾之助
旧賛助	濱名克己
AS17	中野伸
AS18	安田繁
AS19	吉岡季雄
AS20	内波秀一
AS20	横山佐太正
AS22	畑添雅男
AS22	大淵深
AS22	中村秀徹
AS22	春松高
AS22	知識敬道
AS23	石堂隼人
AS23	福留達夫
AS23	岡村克郎
AS25	湯ノ上光昭
AS26	上ノ蘭誠
AS26	堂元邦典
AS26	八幡正則
AS29	逆瀬川國男
AS30	福田力
AS31	村井敏夫
AS31	平源一
AS31	福山見孝
AS31	和田誠男
AS32	有蘭勉
AS32	中園和年
AS32	杉田旭
AS32	富岡光則
AS32	古市吉男
AS32	松澤宜生
AS33	有村憲一
AS33	原正長
AS34	江崎一弘
AS34	神吉善茂
AS34	服部喜壽郎
AS35	中西喜彦
AS35	深町三朗
AS35	本藤周博
AS36	原田淳
AS36	小原正俊
AS37	青木弘光
AS37	山下高德
AS37	浅田謙介
AS37	穂満弘己
AS37	清水博之
AS38	川村史郎
AS38	古莊輝久
AS39	今屋洋
AS39	堀切俊幸
AS40	萬田正治
AS41	岩猿敬文
AS44	石原宏
AS45	入江潤三

学科卒年	氏名
AS46	東孝行
AS47	池端裕昭
AS48	高橋氣
AS48	水之浦孝
AS49	佐野岩男
AS51	村田達郎
AS51	野平道実
AS52	北野常盤
AS52	平井正明
AS52	永井定明
AS53	竹田泰則
AS55	鳥居裕一
AS56	三井寿一
AS59	古蘭勉
AS60	新屋敷生男
FS22	木村義章
FS23	元野繁
FS24	小幡辰雄
FS24	紀野武夫
FS26	那須袈春
FS26	安武次郎太
FS28	吉村岳丸
FS28	金堂正芳
FS29	内邦博
FS30	丸尾睦夫
FS31	岩崎健夫
FS31	岩本六夫
FS31	岩野文二
FS31	吉永豊
FS31	吉村一郎
FS31	原田俊一
FS31	瀬戸俊
FS31	野口英昭
FS31	友成明夫
FS32	上野達木
FS32	平川義則
FS33	桑原武男
FS33	永友勇太郎
FS34	川邊恭右
FS35	天本治夫
FS35	中山安宅
FS35	落合寅夫
FS35	二宮隆太郎
FS35	田丸元
FS36	甲佐諭
FS36	後藤幸夫
FS36	本田文男
FS36	有蘭哲也
FS37	平野哲一
FS39	西田孝義
FS39	岡崎旦
FS44	遠矢良太郎
FS45	清水政治
FS46	北村良介
FS51	泊賢一郎
FH3	小原誠
FH4	堀智弘
CS16	景浦泰三

学科卒年	氏名
CS23	津野林士
CS23	隠塚克己
CS24	岡田信夫
CS28	市来秀夫
CS28	本村栄一
CS29	宇田川義夫
CS30	福永隆生
CS31	雑賀文知
CS31	慶田喜徳
CS31	小野敬一郎
CS34	上山誠郎
CS34	門脇申門
CS34	長谷場彰
CS34	藤本滋生
CS34	西迫順弘
CS34	小川泰雄
CS35	徳田彰
CS36	前田滋
CS36	前田好美
CS36	本村輝正
CS37	堀田宗浩
CS37	伊地知亨
CS39	本田寛
CS40	村上暁
CS42	井川隼次
CS42	古川三盛
CS49	福德康雄
CS50	西澤保孝
CS59	宇都宮裕子
SS22	増田信己
SS24	田原富貴男
SS25	江頭芳郎
SS26	下大迫二徳
SS29	橋口勉
SS29	佐伯幸雄
SS32	狸々武徳
SS32	今村俊男
SS32	永峯隆
SS35	林満
SS36	福元義人
SS36	大岩勝徳
SS37	松下三郎
SS40	川原俊秀
VS19	山口正巳
VS22	横田修
VS22	平山慶太郎
VS23	篠原昭吾
VS25	内田昭
VS25	伊藤珠子
VS26	白坂昭治
VS26	渡邊幸博
VS29	吉山文蔵
VS31	下田善之
VS32	米倉弘明
VS33	堀之内達男
VS33	藤田満
VS35	野間口義知
VS36	野村浩平

学科卒年	氏名
VS37	尾下泰彦
VS37	大漣武徳
VS37	金堂和生
VS37	日高康貴
VS43	竹嶋莞二
VS43	永瀬明
VS45	押川正紀
VS46	柳田興平
VS48	細谷修
VS55	本山健次
VS60	佐々木悟
VH12	蓮沼浩
VH20	片山真希
VH26	藤田祐一
GS32	玉利道満
GS34	大六野貞雄
GS35	小川佳彦
GS35	窪田孟弘
GS35	丸山孝男
GS35	暁泰臣
GS36	岩切貢
GS36	小原井庸夫
GS36	高倉喜八郎
GS37	鮎川俊一
GS37	市橋陰詩
GS37	黒木勇
GS37	米澤正喜
GS37	野上真八郎
GS39	植谷治夫
ZS42	屋久正文
ZS45	村尾実
ZS46	所崎旦
ZS46	後迫敏幸
ZS47	的野英夫
ZS61	林信一
ES45	秋永孝義
ES46	熊本徹
ES48	杉光郎
ES49	中村隆
ES49	山田康司
ES49	塚田正明
ES50	石澤一美
ES52	吉嶺彰二
ES53	中原拓郎
HS48	富永茂人
HS51	原耕実
HS51	松隈賢士
HS52	岩田賢典
HS56	空閑宏典
HS57	鯨坂明彦
HS59	中村秀人
HH5	佐々木智康
生H11	山之内忠幸
AMS46	津山新一郎
AMH7	志和地弘信
環MH23	上野治美

氏名掲載不可 1名

あらた同窓会役員名簿

令和3年11月23日現在

名誉会長	
顧問	橋本 文雄(賛助)
会長	藤田 晋輔(林37)
副会長	浮津 護(林38) 佐野 岩男(農49) 田中 隆義(農59) 富永 茂人(常任・園48)
監事	下川 悦郎(林44) 黒木 譲二(農47) 菊川 明(農48)
常任幹事	
庶務担当	田浦 悟(農59) 南 雄二(化59)
会計担当	末吉 武志(農工平5)
会報担当	梶木 直也(化58) 遠城 道雄(院農59) 寺本 行芳(環平7)
名簿担当	津田 勝男(農55)
広報担当	平 瑞樹(農工62)
幹事	坂井 教郎(賛助) 吉田 理一郎(賛助) 奥山 洋一郎(賛助) 大塚 彰(畜平1) 花城 勲(院農化平6) 下桐 猛(賛助) 鶴丸 博人(資平13) 一二三 達郎(獣平22)
評議員	大津 清司(農53) 南 蘭 覚(農56) 西田 和夫(農57) 溝添 俊樹(林41) 大坪 弘幸(林45) 永田 鉄山(蚕30) 大岩 勝徳(蚕36) 稲永 醇二(化42) 星野 泰啓(化58) 新納 時英(獣44) 高橋 亘(獣46) 佐々木 幸良(獣58) 中村 博大(畜43) 吉嶺 彰二(農工52) 東久保 研一(園48) 酒瀬川 洋児(園56) 東 明弘(園57) 大久保 祐司(生平6) 石橋 松二郎(資平6)
(役職指定)	各地域支部長 農学部副学部長および学科長 鹿児島支部幹事

令和元年度 一般会計決算書

収入額 8,528,293円 支出額 4,463,542円 繰越金 4,064,751円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異	
会費	5,280,000	4,455,000	825,000	
年会費	2,600,000	2,219,000	381,000	延べ 1,110名
入会金	2,080,000	1,901,000	179,000	新正会員7名(21,000) 在校生2名(20,000) 新入生169名(1,690,000) 卒業生17名(170,000)
懇親会費	600,000	335,000	265,000	総会会費(67人分)
賛助金	100,000	1,676,500	△1,576,500	拠出者 232名
雑収入	100	35,014	△34,914	寄附金2名(35,000) 利子(14)
繰越金	2,360,770	2,360,770	0	
繰入金	2,000	1,009	991	基金利子
合計	7,742,870	8,528,293	△785,423	

支出の部

項目	予算額	決算額	差異	
会議費	650,000	538,463	111,537	
総会費	550,000	396,000	154,000	総会会費(5,500円×72名)
役員会費	100,000	142,463	△42,463	幹事会、会計監査、 評議員会
事業費	1,970,000	1,400,220	569,780	
印刷費	500,000	444,983	55,017	学生向け会報(101,200) 払込取扱票(23,100) 会則(6,600) 春季号会報(226,083) 封筒(88,000)
卒業祝賀会費	300,000	0	300,000	新型コロナ感染拡大のため中止
支部交付金	200,000	187,600	12,400	広島(4,400) 佐賀(7,200) 熊本(10,800) 鹿児島(165,200)
旅費	200,000	94,320	105,680	広島(53,420) 熊本(30,740) 宮崎(10,160)
通信運搬費	700,000	623,317	76,683	会報送料(451,025) 振込手数料等(172,292)
講演会費	20,000	0	20,000	新型コロナ感染拡大のため中止
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	令和6年度実施予定
事務局費	1,930,000	1,596,009	333,991	
役員報酬	520,000	520,000	0	常任副会長(360,000) 幹事(160,000)
賃金	800,000	699,600	100,400	給料
備品費	160,000	0	160,000	
消耗品費	30,000	51,959	△21,959	事務用品等
光熱水費	100,000	95,485	4,515	電気(88,605) 上下水道(6,880)
通信運搬費	200,000	142,067	57,933	インターネット接続料(12,120) 電話(72,888) サーバー使用料(11,088) ハガキ・切手(29,466) 送料等(7,505)
賃借料	60,000	85,690	△25,690	建物使用料 (R.1.10.1~R.2.3.31分) (28,600) (R.2.4.1~R.3.3.31分) (57,090)
慶弔費	60,000	1,208	58,792	弔電
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	28,850	171,150	寸志(25,000) その他(3,850)
繰出金	800,000	800,000	0	
名簿特別会計へ	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
基金特別会計へ	500,000	500,000	0	基金特別会計へ 注)
予備費	2,092,870	0	2,092,870	
合計	7,742,870	4,463,542	3,279,328	

注) 基金特別会計から借用了1,500,000円は、年次計画で返却することとしたので、本年度は500,000円を返却した。平成30年度・令和元年度にそれぞれ500,000円を返却したので、基金特別会計からの借入金金は500,000円となった。



令和元年度 同窓会名簿特別会計決算書

収入額 2,093,281円 支出額 24,722円 繰越金 2,068,559円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異	
名簿代	0	4,500	△4,500	
雑収入	50	13	37	利子
繰越金	1,788,768	1,788,768	0	
繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
合計	2,088,818	2,093,281	△4,463	

支出の部

項目	予算額	決算額	差異	
名簿作成費	50,000	24,200	25,800	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	50,000	24,200	25,800	卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	522	4,478	
予備費	2,033,818	0	2,033,818	
合計	2,088,818	24,722	2,064,096	

あらた同窓会資産表

令和2年9月末日現在

基金特別会計			
定期預金	鹿児島銀行	10,000,000円	
定期預金	南日本銀行	2,500,000円	
普通預金	鹿児島銀行	601,553円	
合計		13,101,553円	
一般会計			
普通貯金	郵便局	4,064,751円	
名簿特別会計			
普通貯金	郵便局	2,068,559円	
功労者表彰特別会計			
普通貯金	南日本銀行	134,359円	
総計		19,369,222円	

令和元年度 功労者表彰特別会計決算書

収入額 427,421円 支出額 293,062円 繰越金 134,359円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異	
繰越金	377,420	377,420	0	
繰入金	50,000	50,000	0	令和元年度積立金
雑収入	20	1	19	利子
合計	427,440	427,421	19	

支出の部


項目	予算額	決算額	差異	
祝賀会費	50,000	27,500	22,500	
記念品費	300,000	260,832	39,168	記念品代等
雑費	30,000	0	30,000	
予備費	47,440	4,730	42,710	功労賞送料等
合計	427,440	293,062	134,378	


監査報告書


あらた同窓会令和元年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

令和2年10月26日

あらた同窓会

監事 下川悦郎 

監事 黒木譲二 

監事 菊川明 

あらた同窓会

会長 藤田晋輔 殿

令和2年度 一般会計予算書

収入額 8,946,851円 支出額 8,946,851円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
会費	4,780,000	4,455,000	325,000	
年会費	2,600,000	2,219,000	381,000	延べ1,300名
入会金	2,080,000	1,901,000	179,000	新入生 10,000円×(205名) 新正会員 3,000円×(10名)
懇親会費	100,000	335,000	△235,000	同窓会連合会懇親会費
賛助金	100,000	1,676,500	△1,576,500	賛助金
雑収入	100	35,014	△34,914	利子等
繰越金	4,064,751	2,360,770	1,703,981	
繰入金	2,000	1,009	991	基金利子
合計	8,946,851	8,528,293	418,558	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
会議費	150,000	538,463	△388,463	
総会費	0	396,000	△396,000	
役員会費	150,000	142,463	7,537	幹事会、会計監査
事業費	1,970,000	1,400,220	569,780	
印刷費	500,000	444,983	55,017	会報(秋季号、春季号)
卒業祝賀会費	300,000	0	300,000	
支部交付金	200,000	187,600	12,400	各支部へ
旅費	200,000	94,320	105,680	支部総会出席等
通信運搬費	700,000	623,317	76,683	会報送料、振込手数料等
講演会費	20,000	0	20,000	講師謝礼等
功労者表彰 積立金	50,000	50,000	0	令和6年度実施予定
事務局費	1,960,000	1,596,009	363,991	
役員報酬	520,000	520,000	0	常任副会長・幹事
賃金	800,000	699,600	100,400	給料等
備品費	160,000	0	160,000	
消耗品費	60,000	51,959	8,041	事務用品等
光熱水費	100,000	95,485	4,515	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	142,067	57,933	インターネット接続料、 切手・ハガキ等
賃借料	60,000	85,690	△25,690	会館建物使用料
慶弔費	60,000	1,208	58,792	祝電、弔電等
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	28,850	171,150	
繰出金	800,000	800,000	0	
名簿特別会計へ	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
基金特別会計へ	500,000	500,000	0	基金特別会計へ(注)
予備費	3,766,851	0	3,766,851	
合計	8,946,851	4,463,542	4,483,309	

注) 基金特別会計から借用した1,500,000円のうち、平成30年度・令和元年度にそれぞれ500,000円を返却したため、借入金残額は500,000円となった。本年度も500,000円を返却することとする。

令和2年度 同窓会名簿特別会計予算書

収入額 2,368,609円 支出額 2,368,609円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
名簿代	0	4,500	△4,500	
雑収入	50	13	37	利子
繰越金	2,068,559	1,788,768	279,791	
繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
合計	2,368,609	2,093,281	275,328	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
名簿作成費	50,000	24,200	25,800	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	50,000	24,200	25,800	卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	522	4,478	
予備費	2,313,609	0	2,313,609	
合計	2,368,609	24,722	2,343,887	

令和2年度 功労者表彰特別会計予算書

収入額 184,379円 支出額 184,379円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
繰越金	134,359	377,420	△243,061	
繰入金	50,000	50,000	0	令和2年度積立金
雑収入	20	1	19	利子
合計	184,379	427,421	△243,042	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
祝賀会費	0	27,500	△27,500	
記念品費	0	260,832	△260,832	
雑費	0	0	0	
予備費	184,379	4,730	179,649	
合計	184,379	293,062	△108,683	

## 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

## 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部への発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

- (1) 会報及び会員名簿の発行
- (2) 農学部との連携及び協力
- (3) その他必要と認められた事項

(支部)

第4条 本会は、支部を必要な地に置くことができる。

## 第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。

正会員

- 鹿児島高等農林学校卒業生
- 鹿児島農林専門学校卒業生
- 鹿児島大学農学部卒業生
- 鹿児島大学大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受けた）修了者

学生会員

- 農学部及び大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受ける）に在籍する学生

賛助会員

- 現賛助会員（現職教員）
- 旧賛助会員（退職教員）

2 会員は、住所等に異動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。

## 第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 常任副会長 1名
- (3) 副会長 3名
- (4) 評議員 若干名
- (5) 監事 3名
- (6) 常任幹事及び幹事 若干名
- (7) その他会長が認められた者

(役員を選任)

第7条 会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。

2 評議員は、各地域支部支部長、農学部副学部長、農学部各学科長及び幹事会が推薦した者、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。

3 幹事は、農学部のコース等から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。

(役員に任務)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

2 常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

5 監事は、事業実績並びに会計の執行状況の監査を行い、その結果を総会に報告する。

6 常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。

(役員に任期)

第9条 総会で選任された役員に任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の任期は前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長は会長が委嘱する。
- 3 農学部長は本会の顧問とする。

4 名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

## 第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第5条第1項及び第10条に掲げる者をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 役員を選任に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認められた事項

3 総会は、会計年度開始から2ヶ月内に会長が招集する。

4 総会の議長は出席者の中から選出する。

5 議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(臨時総会)

第13条 臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。

2 臨時総会の議長は選出並びに議決は前条の規定によるものとする。

(評議員会)

第14条 評議員会は、会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事をもって組織する。

2 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第15条 幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
- (2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

## 第5章 会計

(経費)

第16条 本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。

2 正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。

3 学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。

4 年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。

(監査)

第18条 監査は、会計年度ごとに行う。

## 第6章 事務局等

第19条 本会の事務を処理するために事務局を置く。

2 事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

(雑則)

第20条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

## 附則

本会則は、昭和28年12月12日より施行する。

本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。

本会則は、令和元年11月23日より改訂施行する。

## 覚書

1 過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。

2 あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、5年毎に行う。

## 編集後記

今年も卒業・修了の季節となりました。この1年、新型コロナで世界中が大きく変化をせざるを得なくなっています。私も昨年1月末以来、鹿児島県外には一歩も出ていません。最近、「人新世」という言葉が目につくようになりました。これは地質年代を表しているそうですが、簡単に言いますと、「地球が人間の活動によって、新しい地質時代に入った」という考えです。ただし、事はそれほど単純ではなく、「人新世」については、人類の未来についてあらゆる分野での議論が行われています。

卒修了生の皆さんもこれから、新しい道を進まれることとなりますが、これまでの経験などが、今まで以上に役立たない異なった世界が広がっていることは間違いありません。そのためには、大学時代の何百倍も勉強する必要があります。一方で、社会では人とのつながりが大変重要ですので、ぜひ、あらた同窓生のつながりも活かしてほしいと願っています。

(文責 附属農場 遠城道雄)

### 鹿児島大学農学部 あらた同窓会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目2-24  
TEL・FAX 099(285)8537  
e-mail(aratakai@mc2.seikyou.ne.jp)  
振替口座 02010-2-876  
事務局の業務日 月・水・金(10:00~16:00)

印刷所 株式会社鹿児島新生社印刷  
住所 鹿児島市七ツ島1-3-21  
TEL 099-261-0111  
FAX 099-261-3100  
E-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp



南大隅町から開聞岳を臨む夕暮れ